

ISO 39001取得企業様アンケート調査 報告書

2016年3月

独立行政法人 自動車事故対策機構

はじめに

ISO/TC241国内審議委員会事務局を行っているNASVAは、ISO 39001普及・啓発に努めていますが、ISO 39001の認知度の低さにより、新規認証取得組織数は伸び悩んでいる状況であります。

しかしながら、認証を取得した多くの企業様が、RTS目標を掲げ、目標達成に向けた取組みを推進し、効果を把握するとともに見直し・改善に繋げるなど、道路交通安全マネジメントシステムを適切に運用することにより、事故削減等の意図した成果を達成していることが今回のアンケートから確認することができました。

また、認証を取得した企業様からは、「社内の安全管理体制が整備された」、「安全に対して企業の社会的責任を果たしている」、「道路交通安全に係る取組の「見える化」が図られた」などのご意見があり、道路交通安全マネジメントシステムの有効性を認め、組織の道路交通安全に係る信頼性を確保する基盤として、日々運用に取り組む姿勢もうかがえます。

今回のアンケート調査から、道路交通安全を向上させる企業様の努力が表れていると考えられます。

今後とも、取得企業様からいただきました貴重な回答・意見を分析し、取得した企業様の管理者及び取得を希望している企業様の管理者にとって有効な資料として提供するとともに、道路交通安全の標準化のため、ISO 39001の更なる普及・啓発活動を継続していく予定でございます。

アンケート調査にご回答いただきました取得企業の皆様には、ご多忙にもかかわらず、ご協力いただき、誠にありがとうございました。

平成28年3月

独立行政法人 自動車事故対策機構

目 次

第1章 調査の概要	1
1. 調査実施の目的	3
2. 調査の対象	3
3. 調査方法と回収状況	3
4. 調査項目	3
5. 調査結果を見る上での注意事項	4
第2章 調査結果の詳細	5
1. 回答者の属性	7
(1) 業種	7
(2) 全従業員数	8
(3) ISO 39001の適用範囲に含まれる従業員数	9
(4) 使用している車両数	10
(5) ISO 39001の適用範囲に含まれる車両数	11
2. 主要調査結果	12
(1) ISO 39001を知った情報源	12
(2) 最初にISO 39001を知った時、認証取得への判断	13
(2-1) 認証取得に準備時間がかかった、悩んだ理由	15
(3) ISO 39001の認証取得の準備をはじめた時期	16
(4) ISO 39001の認証取得した時期	17
(4-1) ISO 39001の認証取得までの期間	18
(5) 認証取得に関してコンサルタントの支援の有無	19
(6) ISO 39001以外に受けている認証	21
(7) ISO 39001を取得するメリットの期待度	22
(8) RTSマネジメントシステムを構築する上での取組難易度	24
(9-1) RTS目標	26
(9-2) RTS詳細目標	29
(10) ISO 39001認証取得後の効果	32
(11) ISO 39001認証取得効果の具体例	38
(12) 自由意見	43
第3章 調査票	45

第 1 章 調査の概要

1. 調査実施の目的

「道路交通安全の分野に標準化された道路交通安全マネジメントシステムを導入する必要性」は個々の事業レベルや安全性の向上に大いに資するものと考えられ、ISO 39001のさらなる普及拡大が期待されるところである。

しかしながら、ISOの認証取得や維持のためには、相応の手間やコストも必要とされ、組織に過大な負担が生じているとの報告もある。

このような観点から、ISO/TC 241 国内審議委員会事務局である独立行政法人自動車事故対策機構は、今後のISO 39001の普及拡大に向けた対応を図るため、ISO 39001認証取得事業者様にISO 39001の効果及び課題等に係る実態を定量的に把握することを目的とした調査を行うこととした。

2. 調査の対象

平成24年10月から平成27年10月までの間にISO 39001の認証を取得された企業様121社を対象に実施した。

3. 調査方法と回収状況

調査方法：郵送によるアンケート調査

調査期間：平成27年11月24日（火）～平成28年1月8日（金）（投函締切は12月14日）

＜回収状況＞

発送数	回収数	回収率
121件	77件	63.6%

4. 調査項目

調査項目
・組織の概要（事業者名、所在地、担当者名、連絡先など） ・組織の業種 ・組織の規模、適用範囲の規模 ・構築期間、コンサルタントの支援の有無 ・ISO 39001の認証取得の目的 ・ISO 39001の運用状況 ・ISO 39001の認証取得の効果（事故件数の減少、従業員の意識の向上など） ・RTS目標及びRTS詳細目標

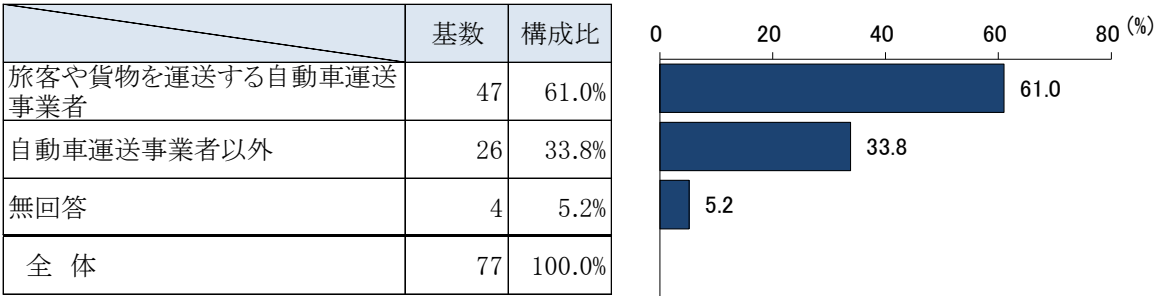
5. 調査結果を見る上での注意事項

- ・本文、表、グラフなどに使われる「n」は、各設問に対する回答者数である。
- ・基数とは、実数値を示す。
- ・百分率（％）の計算は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示した。したがって、単数回答（1つだけ選ぶ問）においても、四捨五入の影響で、％を足し合わせて100％にならない場合がある。
- ・複数回答（2つ以上選んでよい問）においては、％の合計が100％を超える場合がある。
- ・本文、表、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。
- ・回答者数が30未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向を見るにとどめ、本文中では触れていない場合がある。

第 2 章 調査結果の詳細

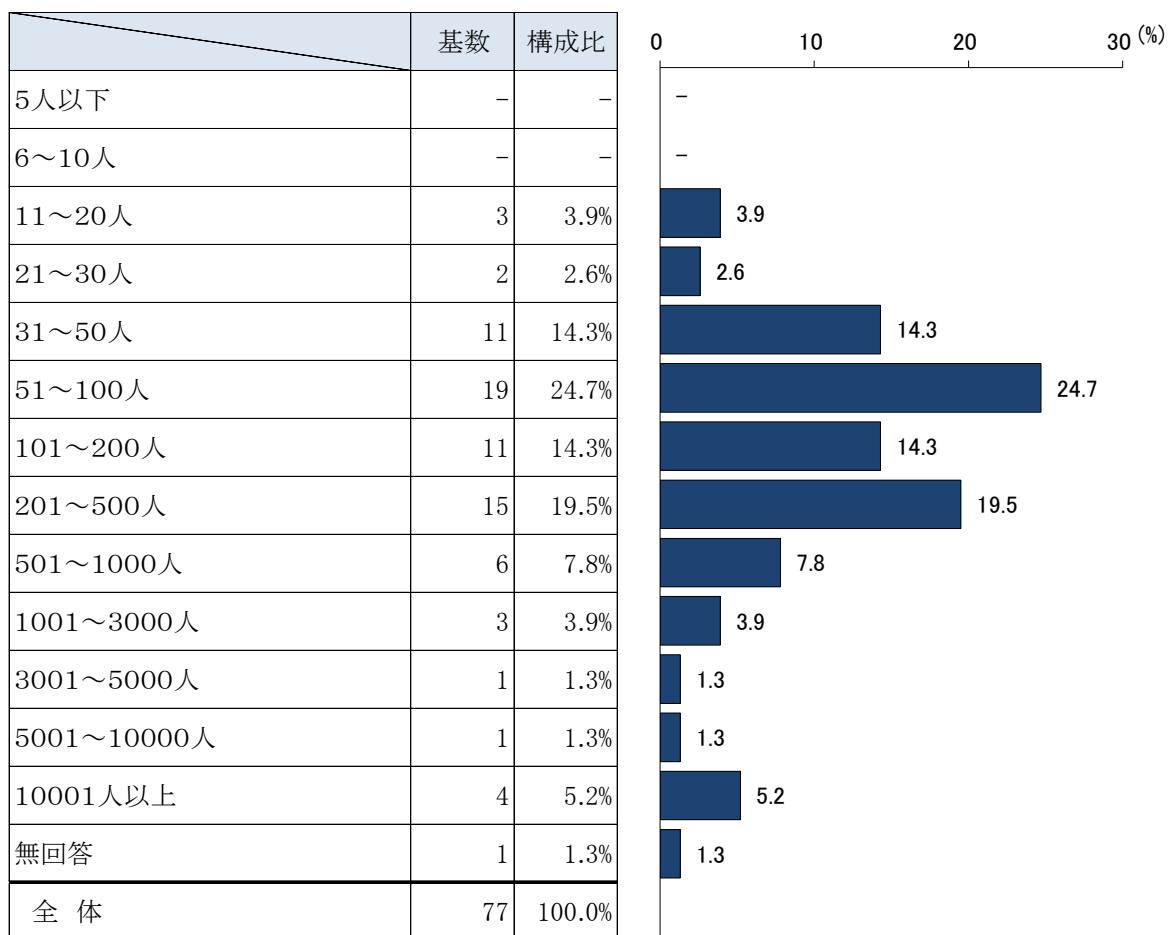
1. 回答者の属性

(1) 業種



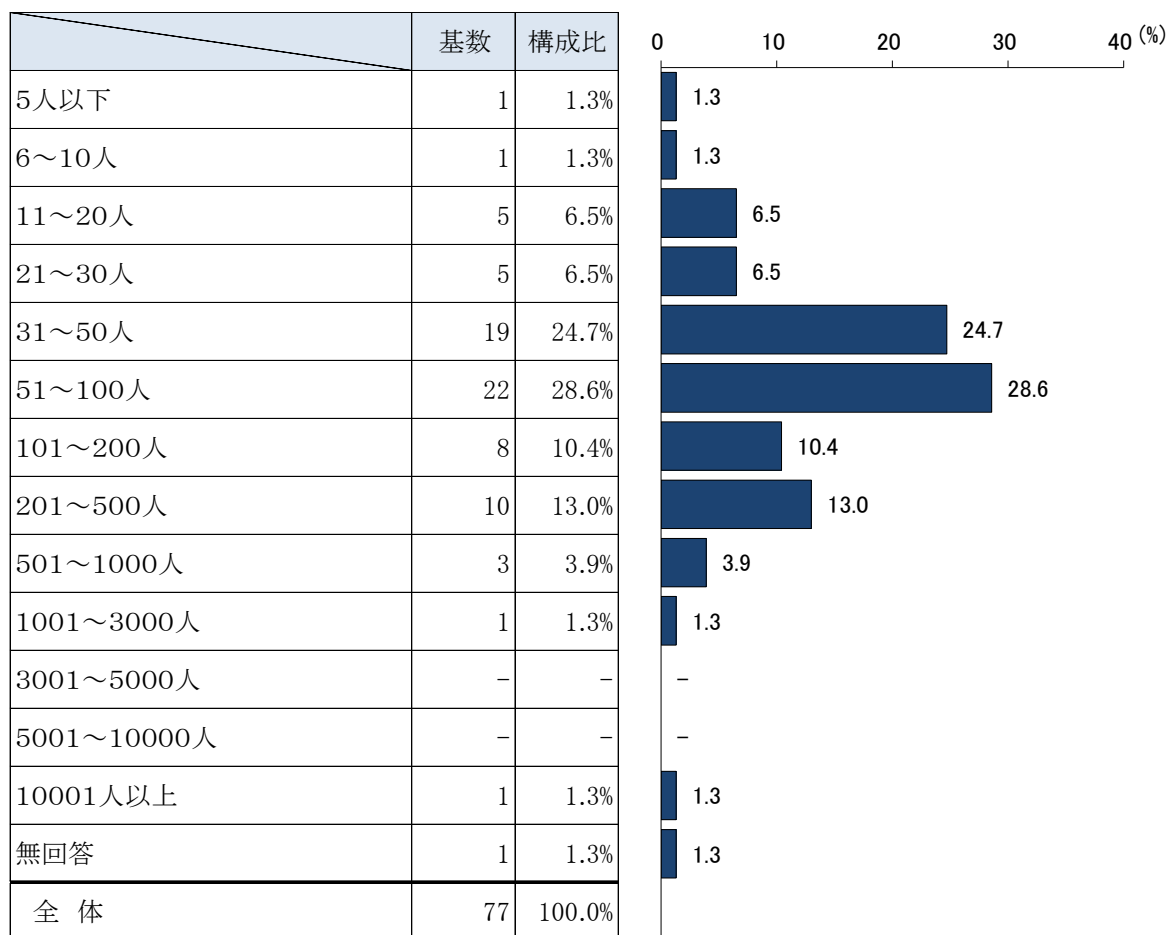
業種については、「旅客や貨物を運送する自動車運送事業者」が47件(61.0%)、「自動車運送事業者以外」が26件(33.8%)となっている。事業用自動車を運行する企業様が、ISO 39001を取得している傾向が見える。

(2) 全従業員数



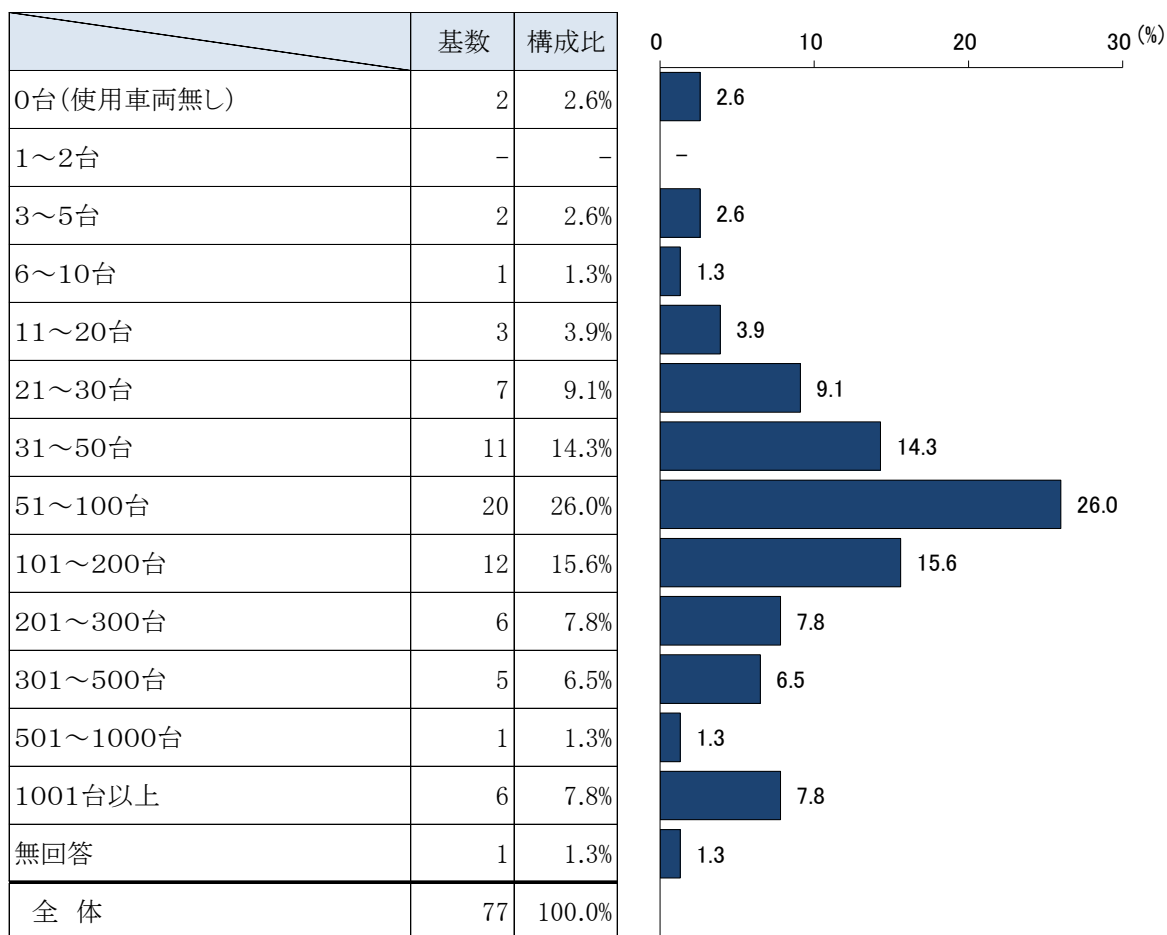
従業員数については、「51～100人」が19件(24.7%)と最も高く、次いで「201～500人」が15件(19.5%)、「31～50人」と「101～200人」がそれぞれ11件(14.3%)となっている。

(3) ISO 39001の適用範囲に含まれる従業員数



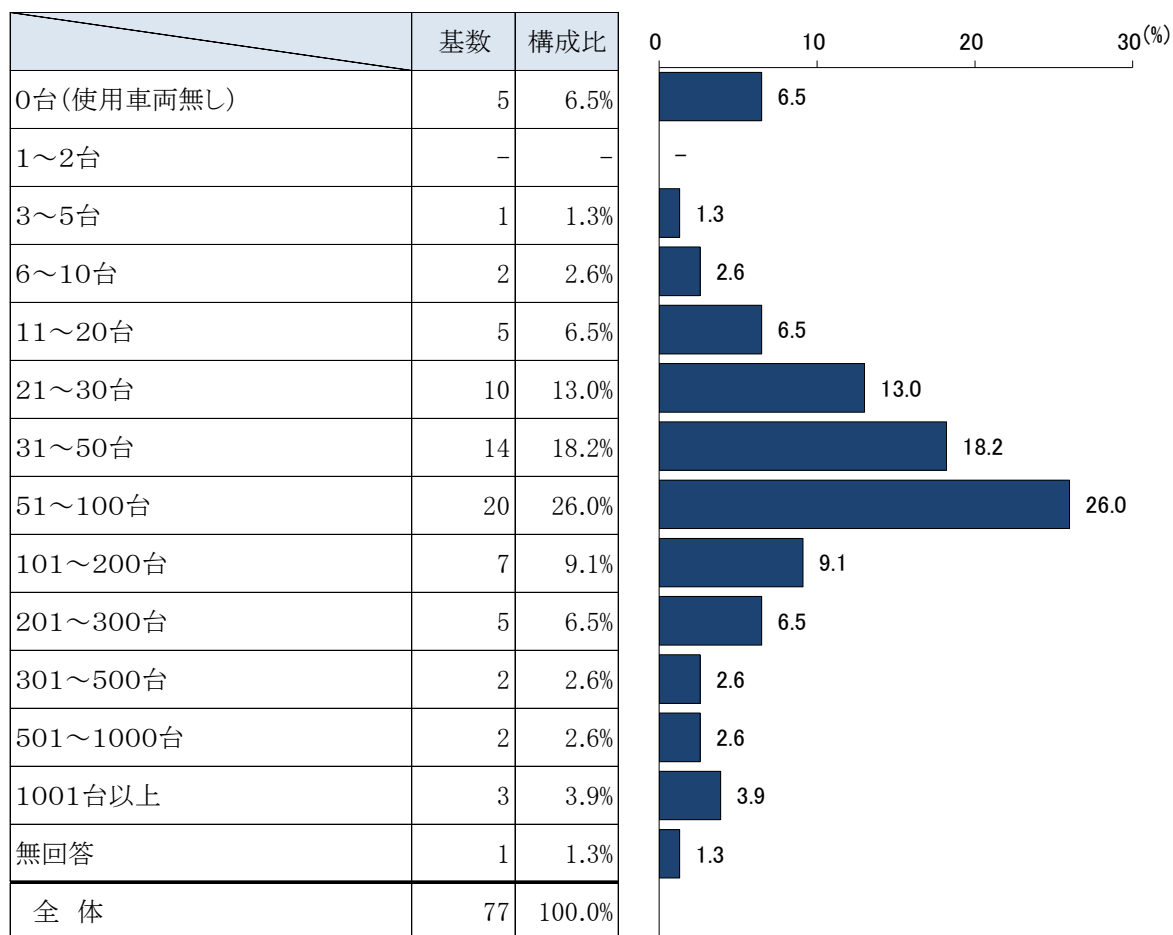
ISO 39001の適用範囲に含まれる従業員数については、「51～100人」が22件(28.6%)と最も高く、次いで「31～50人」が19件(24.7%)、「201～500人」が10件(13.0%)となっている。(2)全従業員数と(3)ISO 39001の適用範囲に含まれる従業員数を比較した結果、認証を取得した多くの企業様が、ISO 39001の適用範囲で従業員数を限定し、運用していた。

(4) 使用している車両数



使用車両数については、「51～100台」が20件(26.0%)と最も高く、次いで「101～200台」が12件(15.6%)、「31～50台」が11件(14.3%)となっている。

(5) ISO 39001の適用範囲に含まれる車両数



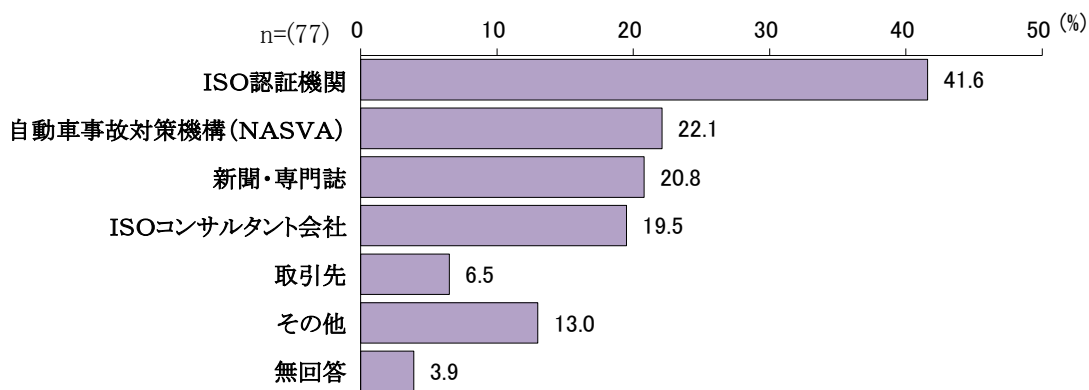
ISO 39001の適用範囲に含まれる使用車両数については、「51～100台」が20件(26.0%)と最も高く、次いで「31～50台」が14件(18.2%)、「21～30台」が10件(13.0%)となっている。(4) 使用している車両数と(5) ISO 39001の適用範囲に含まれる車両数を比較した結果、認証を取得した多くの企業様が、ISO 39001の適用範囲で使用車両数を限定し、運用していた。

2. 主要調査結果

(1) ISO 39001を知った情報源

問1 ISO 39001を知った情報源は何ですか。(あてはまるものすべて○)

【図1 全体】

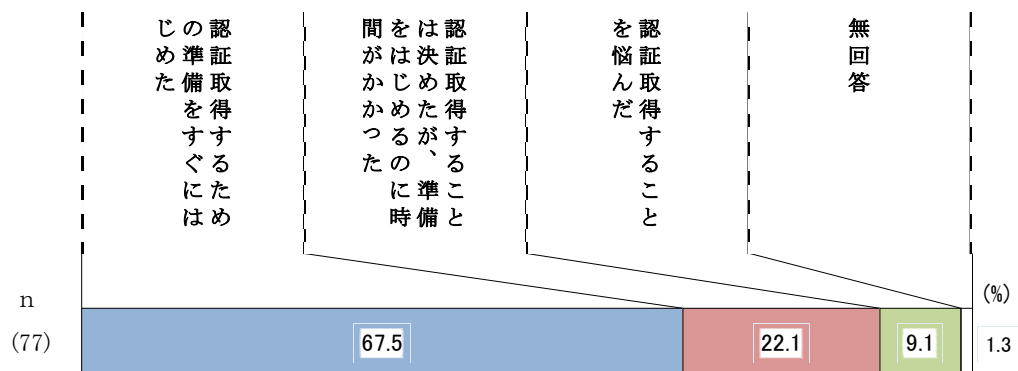


ISO 39001を知った情報源については、「ISO認証機関」が32件(41.6%)と最も高く、次いで「自動車事故対策機構(NASVA)」17件(22.1%)、「新聞・専門誌」16件(20.8%)の順となっている。ISO認証機関が、他のマネジメントシステムの審査時やセミナーの開催等で情報を発信していることが見受けられた。

(2) 最初にISO 39001を知った時、認証取得への判断

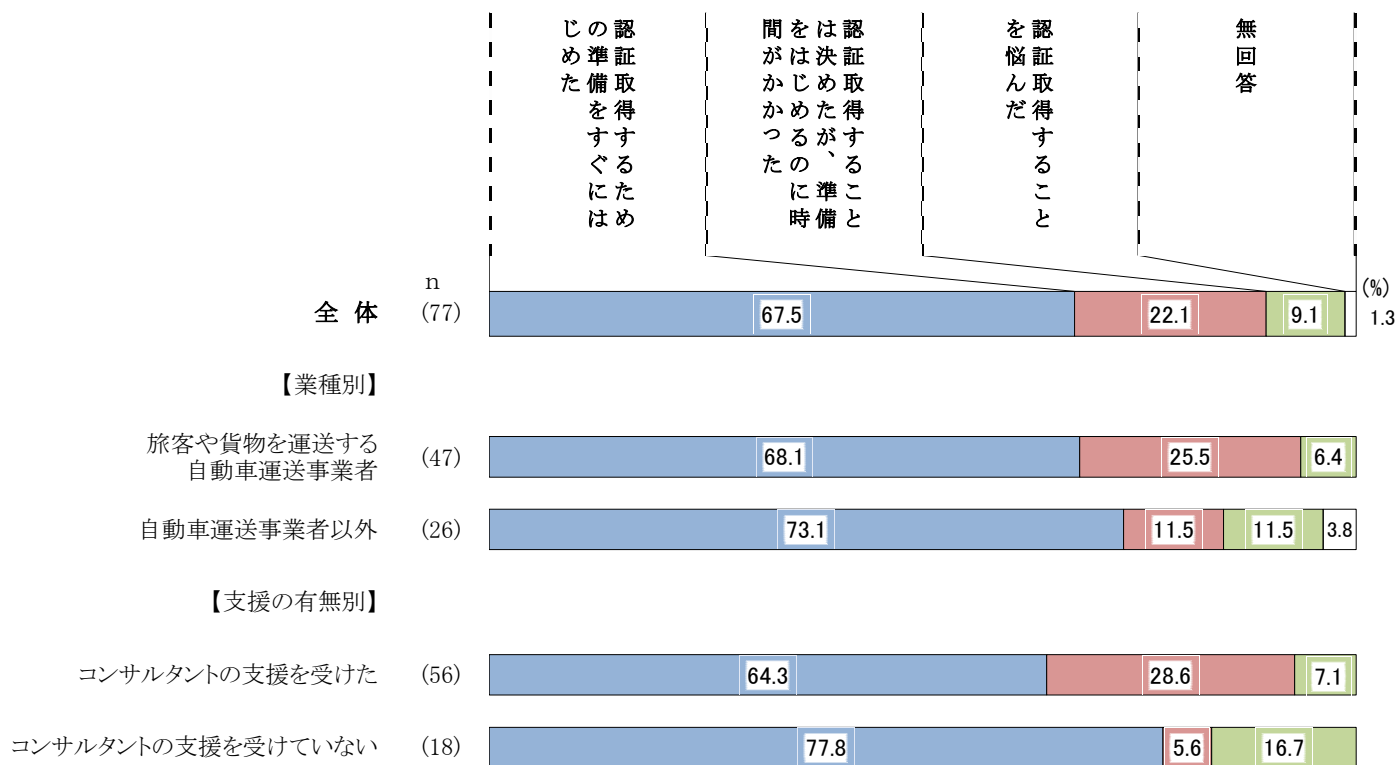
問2 最初にISO 39001を知った時、認証取得に関してどのように判断されましたか。
(1つだけ○)

【図2 全体】



最初にISO 39001を知った時の認証取得への判断については、「認証取得するための準備をすぐにはじめた」が52件(67.5%)と最も高くなっており、次いで「認証取得することは決めたが、準備をはじめるのに時間がかかった」17件(22.1%)、「認証取得することを悩んだ」7件(9.1%)の順となっている。ISO 39001の認証取得が、道路交通安全に有効であると認識していることが読み取れる。

【図3 業種別、支援の有無別】



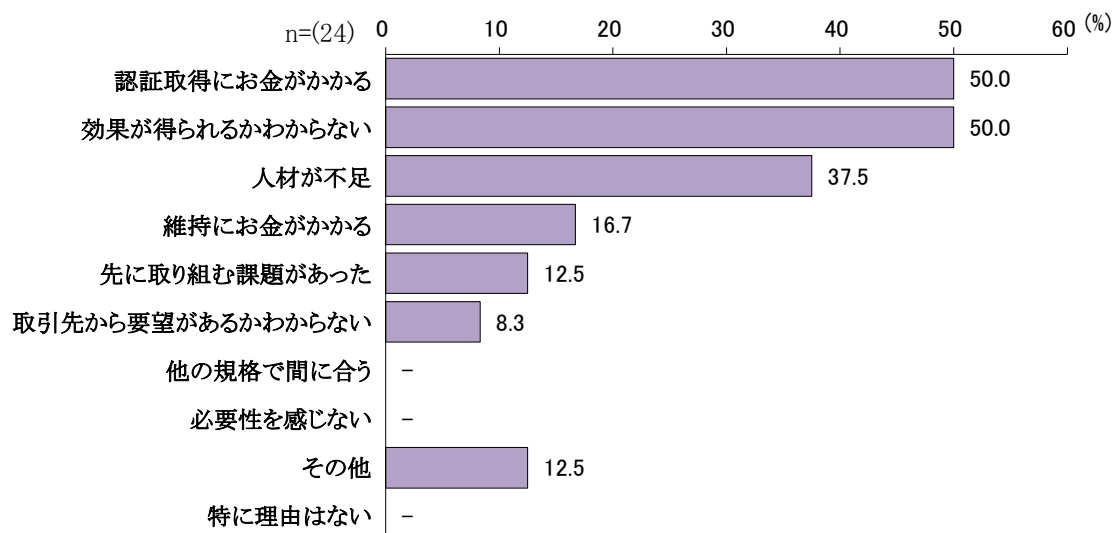
「認め証取得するための準備をすぐにはじめた」を業種別でみると、『自動車運送事業者』32件（68.1%）、『自動車運送事業者以外』19件（73.1%）で、『自動車運送事業者以外』の方が5.0ポイント高くなっている。

「認め証取得することは決めたが、準備をはじめるのに時間がかかった」を支援の有無別でみると、『コンサルタントの支援を受けた』16件（28.6%）、『コンサルタントの支援を受けていない』1件（5.6%）で、『コンサルタントの支援を受けた』の方が23.0ポイント高くなっている。

(2-1) 認証取得に準備時間がかかった、悩んだ理由

問2で「2. 準備時間がかかった または 3. 悩んだ」に○をつけた方にお伺いします
 問2-1 それはなぜですか。(あてはまるものすべて○)

【図4 全体】

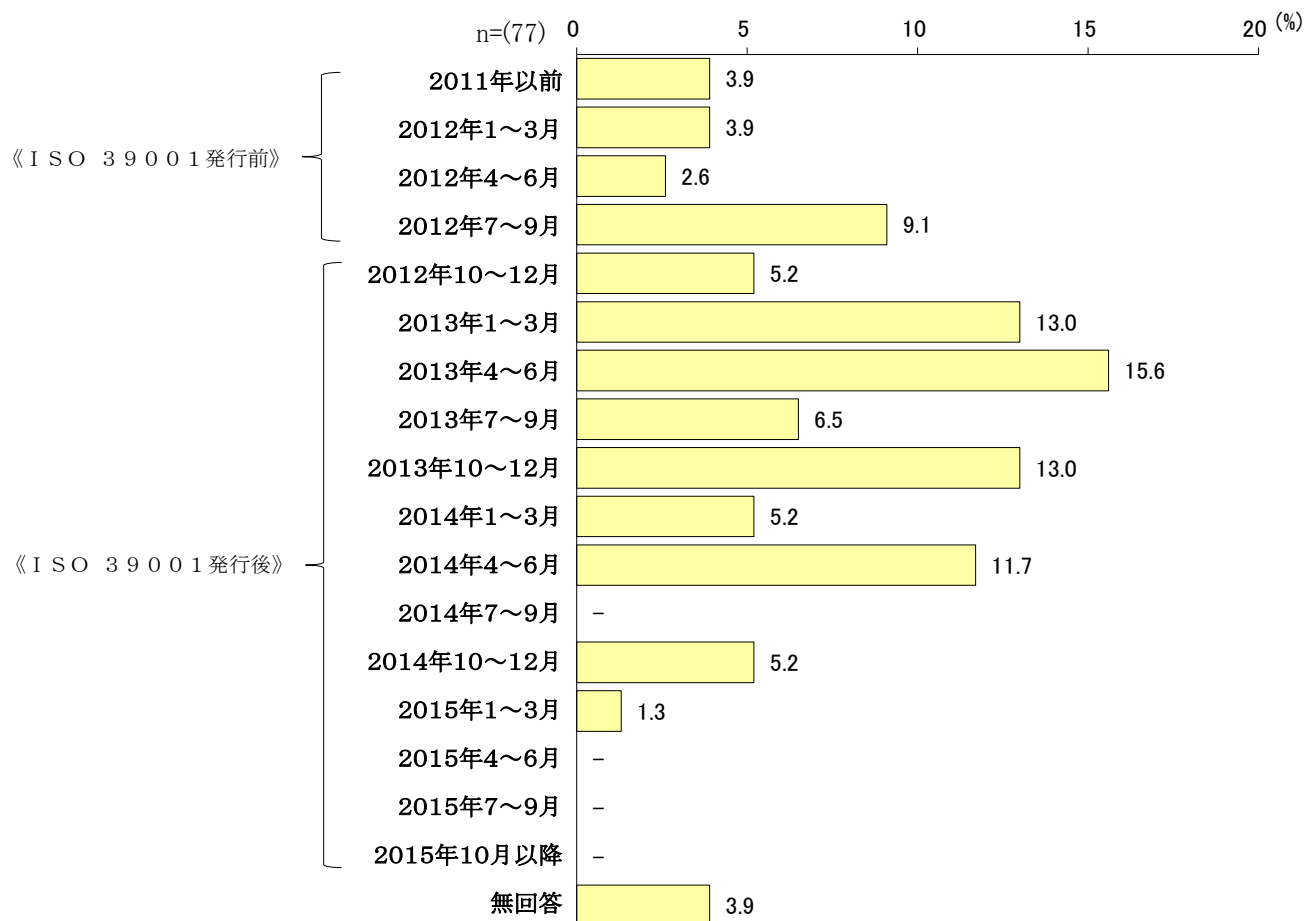


認証取得に準備時間がかかった、もしくは悩んだ理由については、「認証取得にお金がかかる」及び「効果が得られるかわからない」がそれぞれ12件（50.0%）と最も高く、次いで「人材が不足」9件（37.5%）、「維持にお金がかかる」4件（16.7%）の順となっている。認証を取得した企業様は、ISO 39001の取得と維持の費用やその効果が現れるのかを見極めるため、準備時間をかけたり、悩んだりしていることが分かる。

(3) ISO 39001の認証取得の準備をはじめた時期

問3 ISO 39001の認証取得の準備をはじめた時期はいつですか。
(西暦の年月でご記入ください)

【図5 全体】 ※単一回答

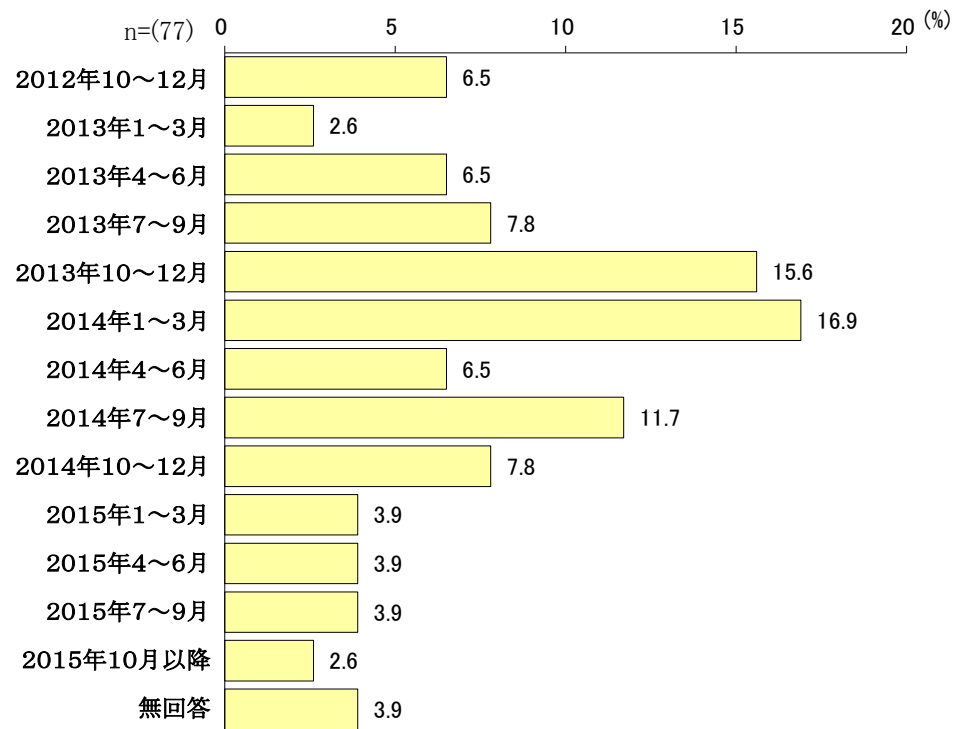


ISO 39001の認証取得の準備をはじめた時期については、ISO 39001が発行した2012年10月より以前に準備を始めた《ISO 39001発行前》は15件（19.5%）、《ISO 39001発行後》は59件（76.7%）となっていて、全体では「2013年4～6月」が12件（15.6%）と最も高くなっている。

(4) ISO 39001の認証取得した時期

問4 ISO 39001の認証取得された時期はいつですか。(西暦の年月でご記入ください)

【図6 全体】 ※単一回答

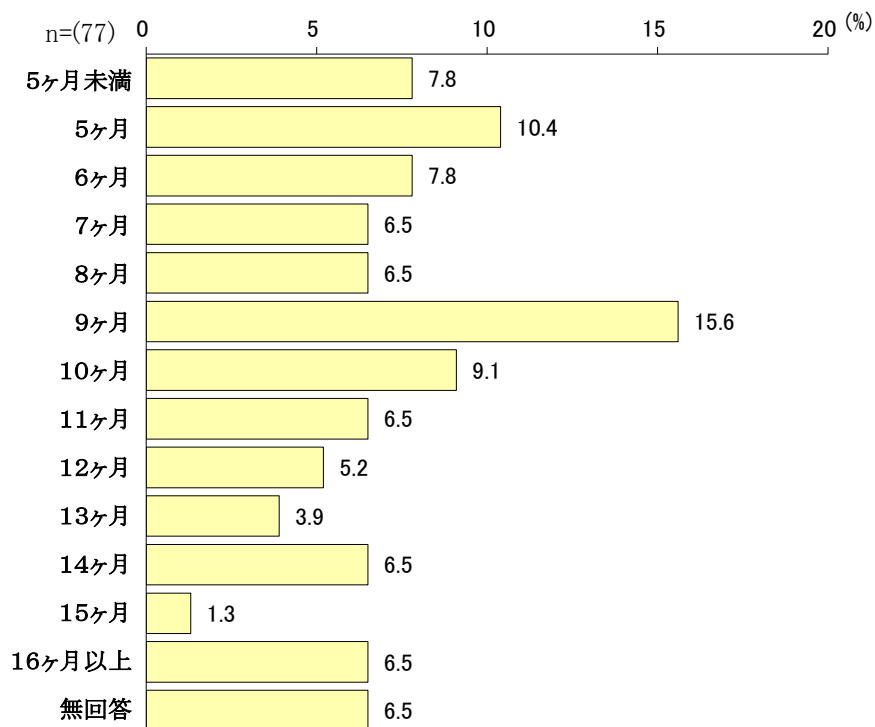


ISO 39001の認証取得をされた時期については、「2014年1～3月」が13件（16.9%）と最も高く、次いで「2013年10～12月」12件（15.6%）、「2014年7～9月」9件（11.7%）の順となっている。直近1年（2014年10月以降）の取得率は17件（22.1%）となっている。2013年と2014年が、認証を取得した企業様のピークになっている。それ以降は、認証を取得した企業様は減少しているが、微増ながら取得企業様が増えている状況を踏まえると潜在的な需要はあると思われる。

(4-1) ISO 39001の認証取得までの期間

ISO 39001の認証取得までの期間について、取得時期から準備時期を引算することにより期間を計算した。

【図7 全体】

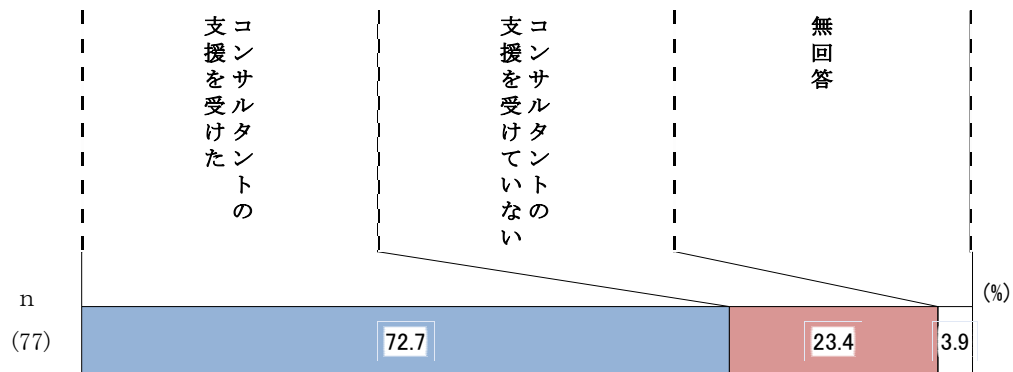


ISO 39001の取得までの期間については、「9ヶ月」が12件（15.6%）と最も高く、次いで「5ヶ月」8件（10.4%）、「10ヶ月」7件（9.1%）の順となっている。平均9ヶ月、最短2ヶ月、最長24ヶ月であった。認証を取得した多くの企業様が、道路交通安全マネジメントシステムを構築し、認証を取得するには、ある程度の期間が必要であることが分かった。

(5) 認証取得に関してコンサルタントの支援の有無

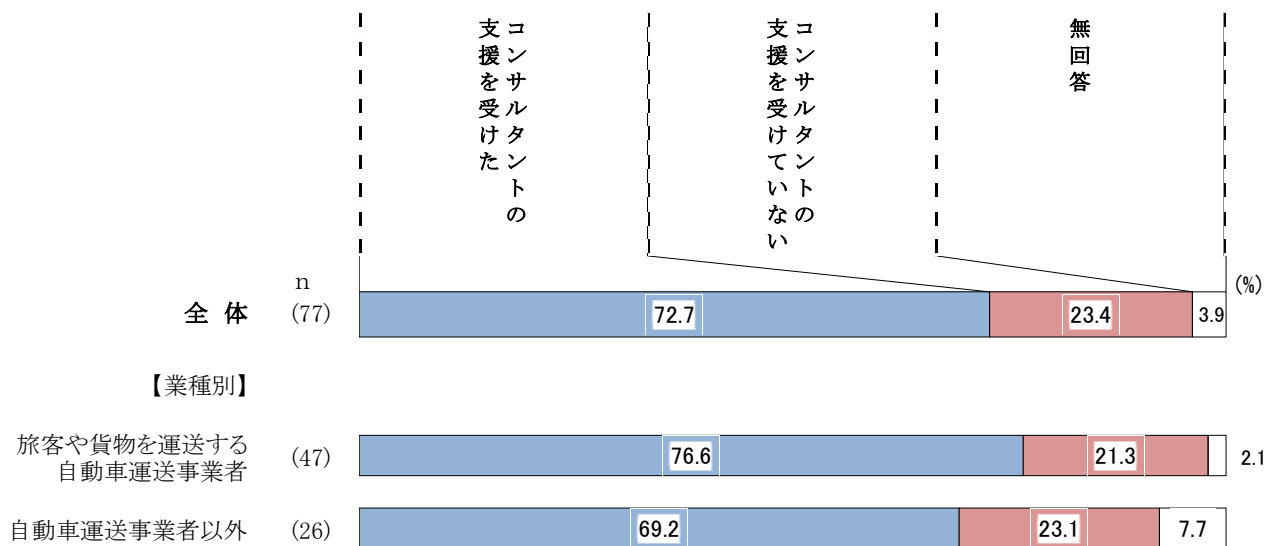
問5 ISO 39001の取得に関して、コンサルタントの支援を受けましたか。(1つだけ○)

【図8 全体】



ISO 39001の認証取得に関して、コンサルタントの支援の有無については、「コンサルタントの支援を受けた」が56件（72.7%）、「コンサルタントの支援を受けていない」が18件（23.4%）となっている。認証を取得した多くの企業様が、コンサルタントを活用し、道路交通安全マネジメントシステムを構築していた。

【図9 業種別、支援の有無別】

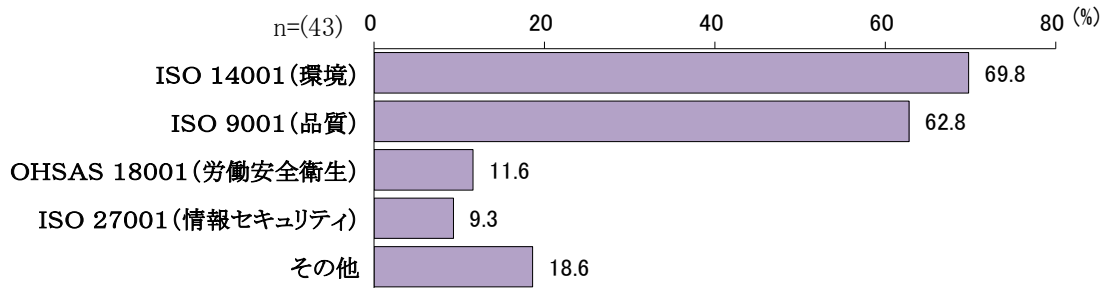


業種別でみると、「コンサルタントの支援を受けた」は『自動車運送事業者』36件（76.6%）、『自動車運送事業者以外』18件（69.2%）で、『自動車運送事業者』の方が7.4ポイント高くなっている。「コンサルタントの支援を受けていない」は『自動車運送事業者』（10件）と『自動車運送事業者以外』（6件）でともに2割強と、あまり差はみられない。

(6) ISO 39001以外に受けている認証

問6 ISO 39001以外に、下記の認証をお持ちですか。(あてはまるものすべて○)

【図10 全体】



ISO 39001以外に受けている認証については、「ISO 14001(環境)」が30件(69.8%)と最も高く、次いで「ISO 9001(品質)」27件(62.8%)、「OHSAS 18001(労働安全衛生)」5件(11.6%)の順となっている。ISO 9001やISO 14001等を取得している企業様は、他のマネジメントシステムの取組を道路交通安全マネジメントシステムの構築に活用していることが考えられる。

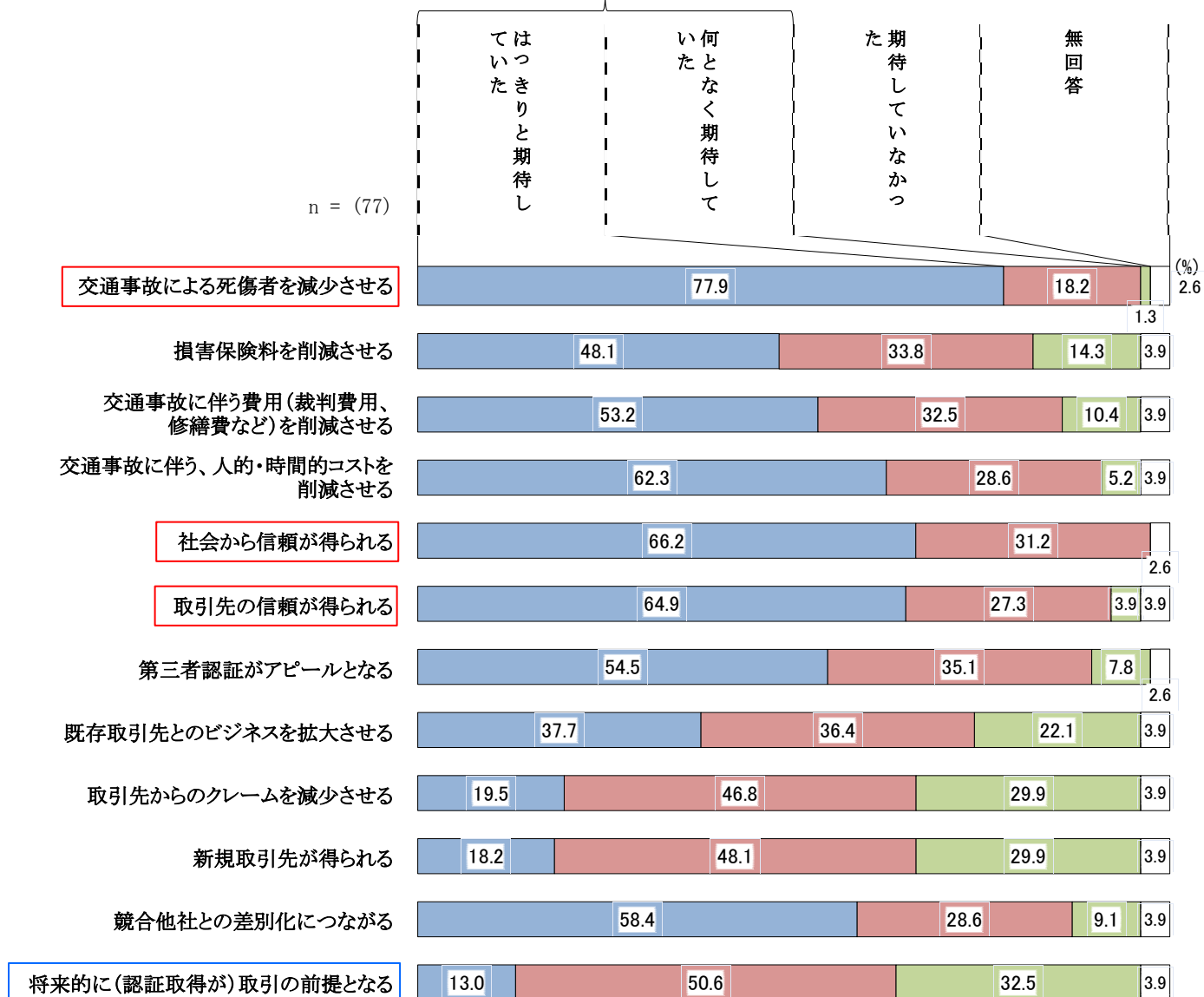
(7) ISO 39001を取得するメリットの期待度

問7 ISO 39001の認証取得する前は、取得するメリットとしてどのようなことを期待されていきましたか。それぞれの項目ごとに期待していた度合いをお答え下さい。
(それぞれ1つだけ○)

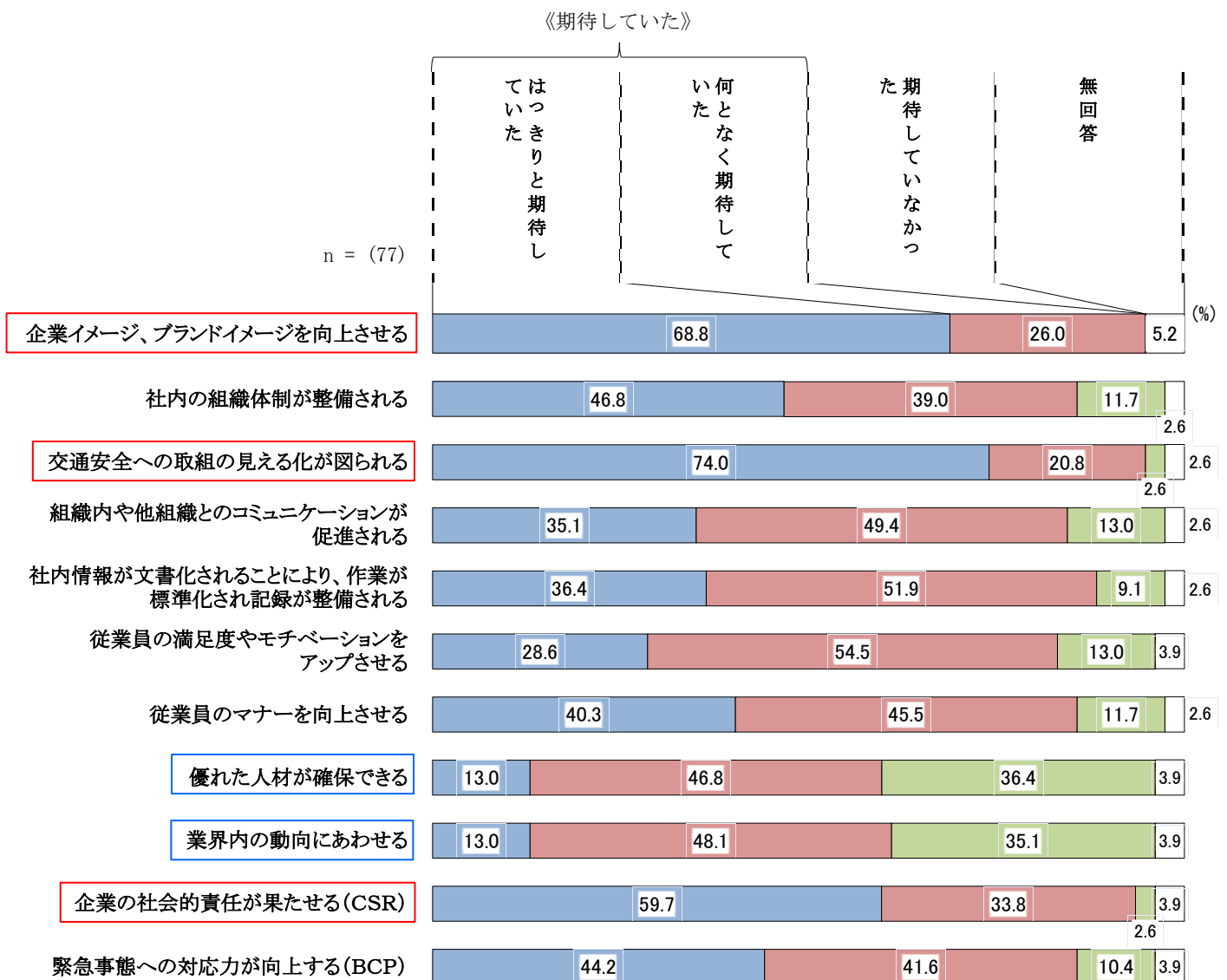
【図11 全体①】

《期待していた》

n = (77)



【図12 全体②】

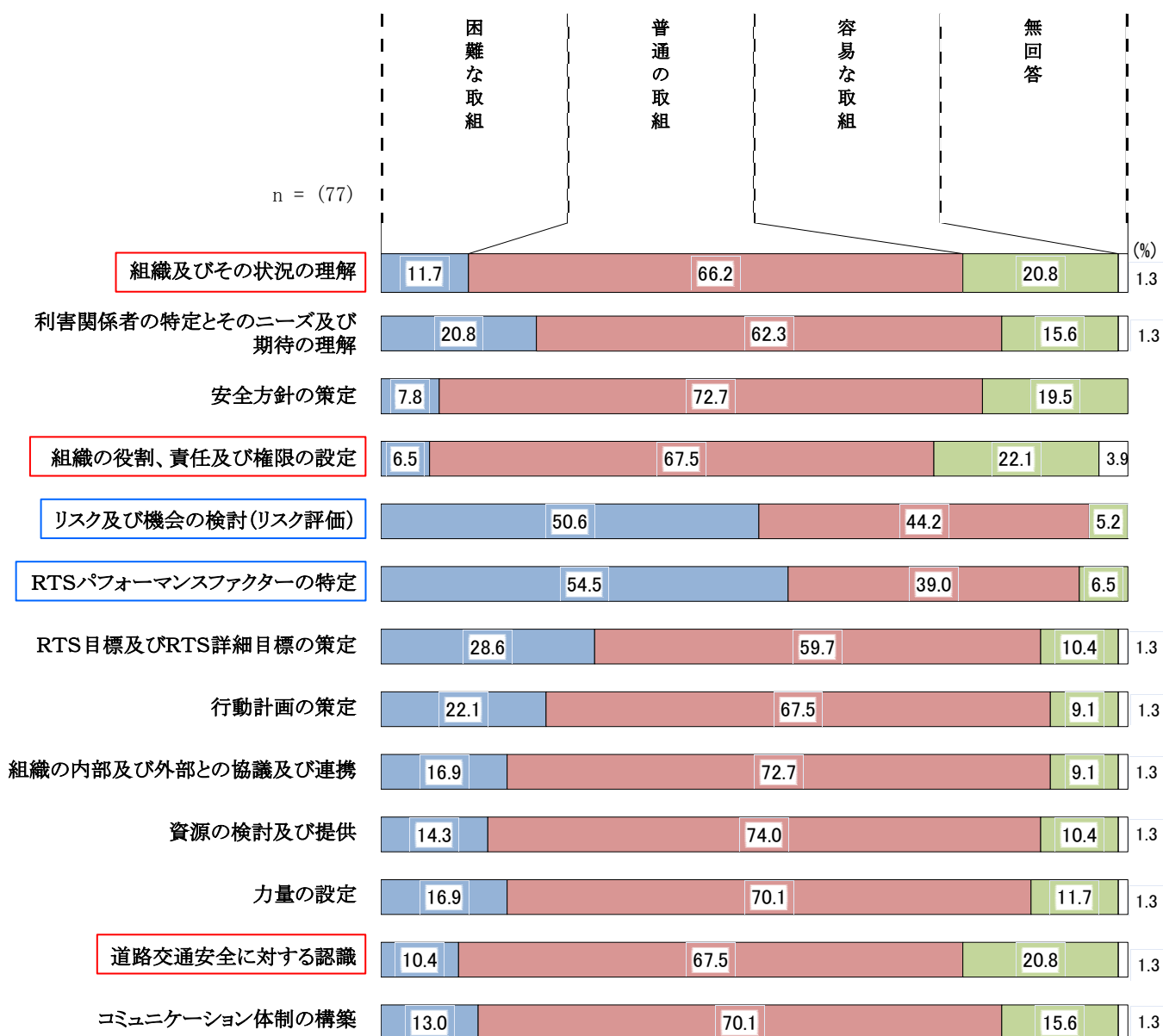


I S O 3 9 0 0 1 を取得するメリットの期待度についてみると、『はつきりと期待していた』と『何となく期待していた』を合わせた《期待していた》は、「社会から信頼が得られる」75件 (97.4%)、「交通事故による死傷者を減少させる」74件 (96.1%)、「企業イメージ、ブランドイメージを向上させる」「交通安全への取組の見える化が図られる」それぞれ73件 (94.8%)、「企業の社会的責任が果たせる (CSR)」72件 (93.5%)、「取引先の信頼が得られる」71件 (92.2%) が9割を超えて高くなっている。『期待していなかった』は、「優れた人材が確保できる」28件 (36.4%)、「業界内の動向にあわせる」27件 (35.1%)、「将来的に (認証取得が) 取引の前提となる」25件 (32.5%) が3割を超えて高くなっている。認証を取得した多くの企業様が、社会から信用を得るためにも、交通事故による死傷者を減少しようと取り組んでいることが分かった。

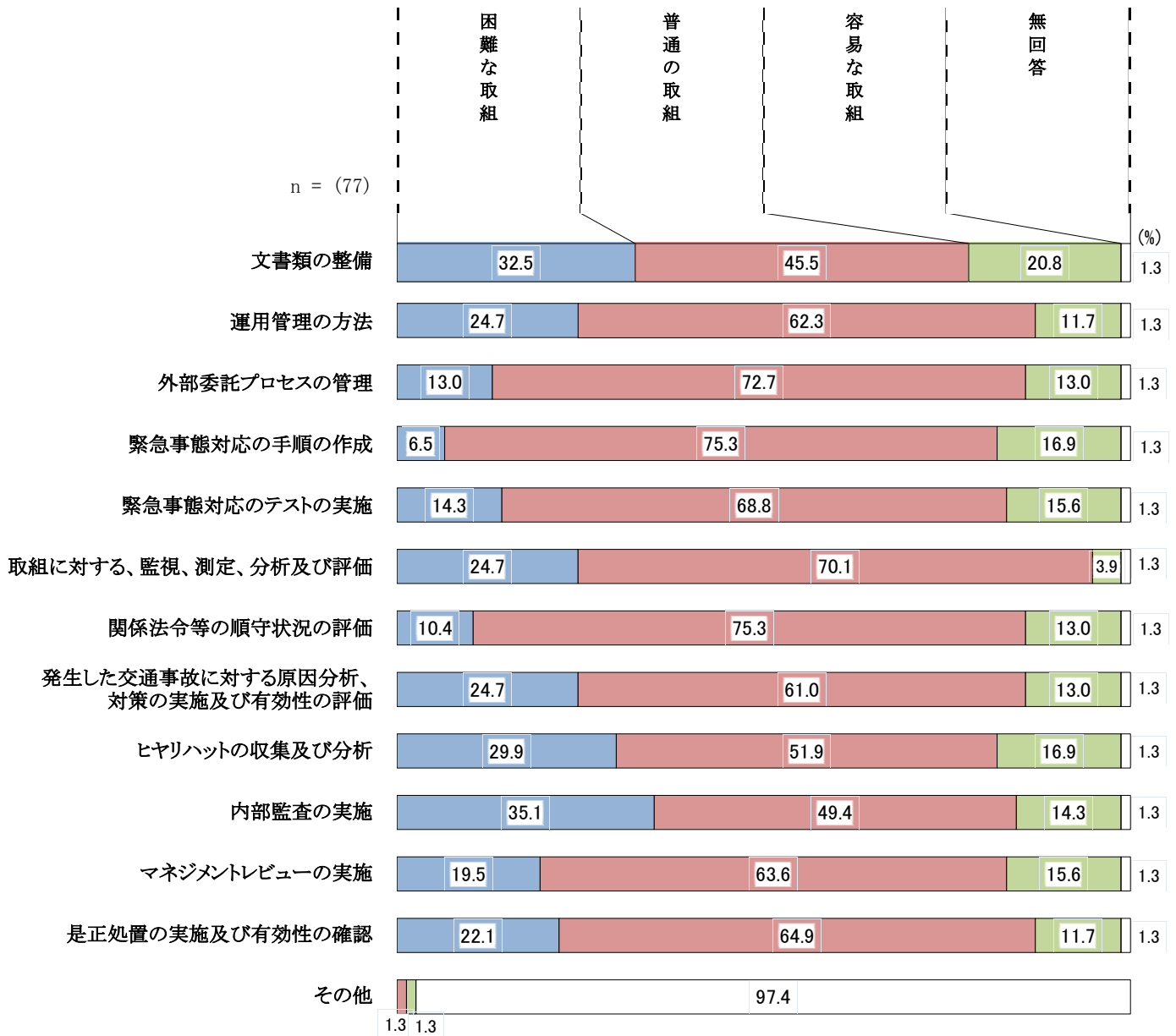
(8) RTSマネジメントシステムを構築する上での取組難易度

問8 RTSマネジメントシステムを構築する上での取組み難易度はいかがでしたか。

【図13 全体①】



【図14 全体②】



R T S マネジメントシステムを構築する上での取組難易度については、「R T S パフォーマンスファクターの特定」42件(54.5%)、「リスク及び機会の検討(リスク評価)」39件(50.6%)において『困難な取組』が5割を超えて最も高くなっている。それ以外の全ての項目においては『普通』が最も高くなっている。『容易な取組』は、「組織の役割、責任及び権限の設定」17件(22.1%)、「組織及びその状況の理解」「道路交通安全に対する認識」それぞれ16件(20.8%)が2割を超えて高くなっている。認証を取得した多くの企業様は、I S O 3 9 0 0 1の「6. 2 リスク及び機会への取組み」や「6. 3 R T S パフォーマンスファクター」を計画にどう反映するかについて、模索していたことが見受けられる。

(9-1) R T S 目標

問9-1 代表的な「R T S 目標」について以下の表にお答えください。(複数回答可)

【図15 R T S 目標の内容(抜粋)】

【R T S 目標の内容】(具体的記入あり=125件)	
事故発生率・件数の低下	32件
車両事故(人身事故、物損事故、貨物事故、車両故障)前年比2割5分削減	
死亡・重傷事故0件。軽傷、物損事故10件以下	
道路交通事故 3年後に5件以下	
死亡・重傷・重大事故ゼロ	31件
第一当事者による死亡事故0件の維持	
交通事故による死者・重傷者数を年間ゼロにする。	
死亡・重傷事故 0件	
交通事故(有責事故)ゼロ	13件
物損事故の撲滅	
有責事故の撲滅	
車両事故件数0目標	
人身事故ゼロ	8件
人身事故ゼロ	
構内、出退勤時での交通人身事故の発生0件/年	
死亡事故、加害人身事故の撲滅(ゼロにする)	
法令順守、規則順守	5件
安全運転5則の厳守で事故防止	
法的要求事項の順守	
安全規則(2章)違反ゼロ	
構内事故削減	4件
構内事故2件以下	
駐車場での事故撲滅	
構内での車両事故件数を前年比15%削減	
健康管理	2件
健康診断の実施	
運転者及び社員の健康管理	
交通違反の件数削減、ゼロ	2件
年間の交通違反件数の削減	
シートベルト着用違反ゼロ	
教育の実施	2件
班会議での教育	
交通法規・安全運行に関する知識の向上	
その他	26件

R T S 目標の内容については、「事故発生率・件数の低下」が32件と最も高く、次いで「死亡・重傷・重大事故ゼロ」(31件)、「交通事故(有責事故)ゼロ」(13件)の順となっている。認証を取得した多くの企業様は、安全成果ファクターから特定された、数値化し、事後に測定可能なR T S 目標を掲げ、取組を実施していた。

【図16 RTS目標の指標と把握の方法（抜粋）】

【RTS目標の指標と把握の方法】（具体的記入あり＝120件）	
各種報告書による件数の把握	42件
「違反申告書」による件数を月毎に集計。四半期ごとに評価	
事故発生報告書（ワークフロー）の件数を四半期毎に集計、把握	
RTS行動計画書兼実行報告書による件数を毎月集計する。	
各種集計による把握	31件
事故報告管理データベースへの報告件数より把握	
事故速報→事故報告。毎月集計把握。対策	
構内での事故件数を月毎に集計し把握	
会議等の報告による把握	6件
毎月、社内全体会議にて事故報告	
安全会議での教育、議事録での確認	
毎月の安全ミーティングにて把握	
都度報告	4件
交通事故は発生の都度報告、規制渋滞は定期的に集計し把握する。	
事故発生後すぐに管理者へ一斉メール送信	
発生都度確認	
管理表、評価シートによる把握	4件
労働環境改善のため、健康管理表で月々の進捗管理	
道路交通安全実績評価シートに記録	
方針管理表にて毎月報告	
デジタコ・ドラレコ等による把握	3件
デジタコ、ドラレコ利用による対策	
デジタコ、ドラレコを活用して運行状況をチェックする。	
毎月デジタコを集計し各ドライバーに毎評価	
その他	30件

RTS目標の指標と把握の方法については、「各種報告書による件数の把握」が42件と最も高く、次いで「各種集計による把握」（31件）、「会議等の報告による把握」（6件）の順となっている。認証を取得した多くの企業様は、RTS目標の進捗及び達成状況を把握するため、事故の件数等パフォーマンスを定期的に把握していることが分かった。

【図17 R T S目標活動の結果（抜粋）】

【R T S目標活動の結果】（具体的記入あり＝116件）	
目標達成	36件
40%以上削減で目標達成	
死亡及び重大な事故0件であり目標達成	
目標20件以内に対し18件で達成	
事故件数等削減、ゼロ達成	22件
事故件数5削減	
前年比20%減	
車両事故が大幅に削減	
目標達成ならず	18件
車両事故3件発生。目標達成ならず。	
年間10件に上り、達成できず。	
全従業員の労務改善には至っていない。	
運用継続中	11件
現在運用半年のため、結果の報告は半年後	
年間目標値以内で推移している。	
2015年度の目標達成に向け取組中	
目標達成・継続中	8件
死亡・重傷事故ゼロ件を継続中	
事故0件を継続	
違反ゼロ継続中	
その他	21件

R T S 目標活動の結果については、「目標達成」が36件と最も高く、次いで「事故件数等削減、ゼロ達成」（22件）、「目標達成ならず」（18件）の順となっている。認証を取得した多くの企業様が、R T S 目標を達成していることが分かった。

(9-2) R T S 詳細目標

問9-2 代表的な「R T S 詳細目標」について以下の表にお答えください。(複数回答可)

【図18 R T S 詳細目標の内容(抜粋)】

【R T S 詳細目標の内容】(具体的記入あり=134件)	
事故関連の数値目標	26件
当社過失事故年間90件以内	
死亡、重大事故以外の事故件数を年間10件以内にする。	
自責交通事故の発生件数0	
研修・講習／教育・指導	19件
当社交通安全マニュアルの理解度80%	
安全運転に関する教育の受講率100%	
安全手順書の作成及び周知教育	
その他数値目標	15件
テレマティクス運転評価点平均70点以上	
巡回指導指摘ゼロ	
点呼実施率100%	
運行管理の徹底	14件
運行管理業務の徹底	
運行管理者の技量のレベルアップ	
始業前車両点検完全実施	
アルコールチェック	11件
アルコールチェック100%実施	
アルコールチェックの徹底	
アルコール検出者を乗務させない。“アルコール検出ゼロ”	
社内速度基準、法定速度の遵守	11件
社内基準速度の順守。前年3割削減	
異常な速度発生回数 年間60回	
速度違反者を毎日確認する。“速度違反者をゼロにする”	
ドライブレコーダー装着・チェック	7件
ドライブレコーダーの分析及び会議での事例発表	
ドライレコをリアルタイムでチェック	
ドライブレコーダーの装着率100%	
ヒヤリハット報告	5件
ヒヤリ・ハット活動の展開	
ヒヤリハット報告の実施(1人、6件以上／年)	
ヒヤリ・ハット情報収集1件以上／月	
安全運転(法令順守)の徹底	4件
不適切運転の削減	
法令遵守の徹底	
信号が黄色時の交差点進入禁止の徹底	
デジタコの評価	3件
デジタコ98点以上	
デジタコ総合評価点 80点以上	
デジタコ評価90点以上の者の比率100%	
シートベルト装着率	3件
シートベルトの着用率100%	
シートベルトの完全装着	
シートベルトの着用率を年次で96%、98%、100%とした。	
その他	16件

代表的なR T S 詳細目標の内容については、「事故関連の数値目標」が26件と最も高く、次いで「研修・講習／教育・指導」(19件)、「その他数値目標」(15件)の順となっている。認証を取得した多くの企業様は、中間安全成果ファクターから特定された、数値化し、事後に測定可能なR T S 詳細目標を掲げ、取組を実施していた。

【図19 R T S 詳細目標の指標と把握の方法（抜粋）】

【R T S 詳細目標の指標と把握の方法】（具体的記入あり=140件）	
デジタコ・ドラレコ等による把握	29件
デジタルタコグラフにより社速違反チェック、把握と指導	
デジタコ全車評価制度	
デジタコ・タコメーター記録による検証	
各種集計による把握	21件
指差呼称実施率を毎月集計し把握	
半期に一度開催する安全講話の受講率を集計し把握	
駐車場での事故件数を毎月集計し把握	
各種報告書による件数の把握	17件
車輛運転時に日報を作成	
R T S 教育実施報告書で把握	
事故報告書にて発生の都度把握	
アルコールチェッカー	9件
アルコールチェッカーにて毎朝（全社的に）チェックする。	
点呼時、アルコール検出記録にてチェック	
免許証チェック、アルコールチェックの併用により管理	
管理表、評価シートによる把握	9件
運転者ごとのテレマティクス評価点を集計し把握（月単位）	
指導要領書とチェックリストを使ってドライバーの状態を把握	
スピードチェック表にて管理者が毎月チェック	
会議等の報告による把握	7件
年3回実施 グループディスカッション	
毎月の班会において集め検討会を実施する。	
毎月の安全ミーティングにて報告	
各種点検、点呼	7件
毎月1回車両点検	
運行前の車両の点検実施を点呼にて確認し点呼簿に記録	
点検時の指導事項の100%改善	
研修・指導等	7件
有料ドライビングスクール受講	
運転者の経歴等から添乗・指導の必要な時期を決定し実施できた回数の割合	
安全運行による座学研修	
パトロール等	5件
毎日、安全パトロールをしチェックする。	
安全パトロール等により着用状況確認	
パトロール計画・実績表にて管理	
その他	29件

R T S 詳細目標の指標と把握の方法については、「デジタコ・ドラレコ等による把握」が29件と最も高く、次いで「各種集計による把握」（21件）、「各種報告書による件数の把握」（17件）の順となっている。認証を取得した多くの企業様は、R T S 詳細目標の進捗及び達成状況を把握するため、安全に資する取組のパフォーマンスを定期的に把握していることが分かった。

【図20 RTS詳細目標活動の結果（抜粋）】

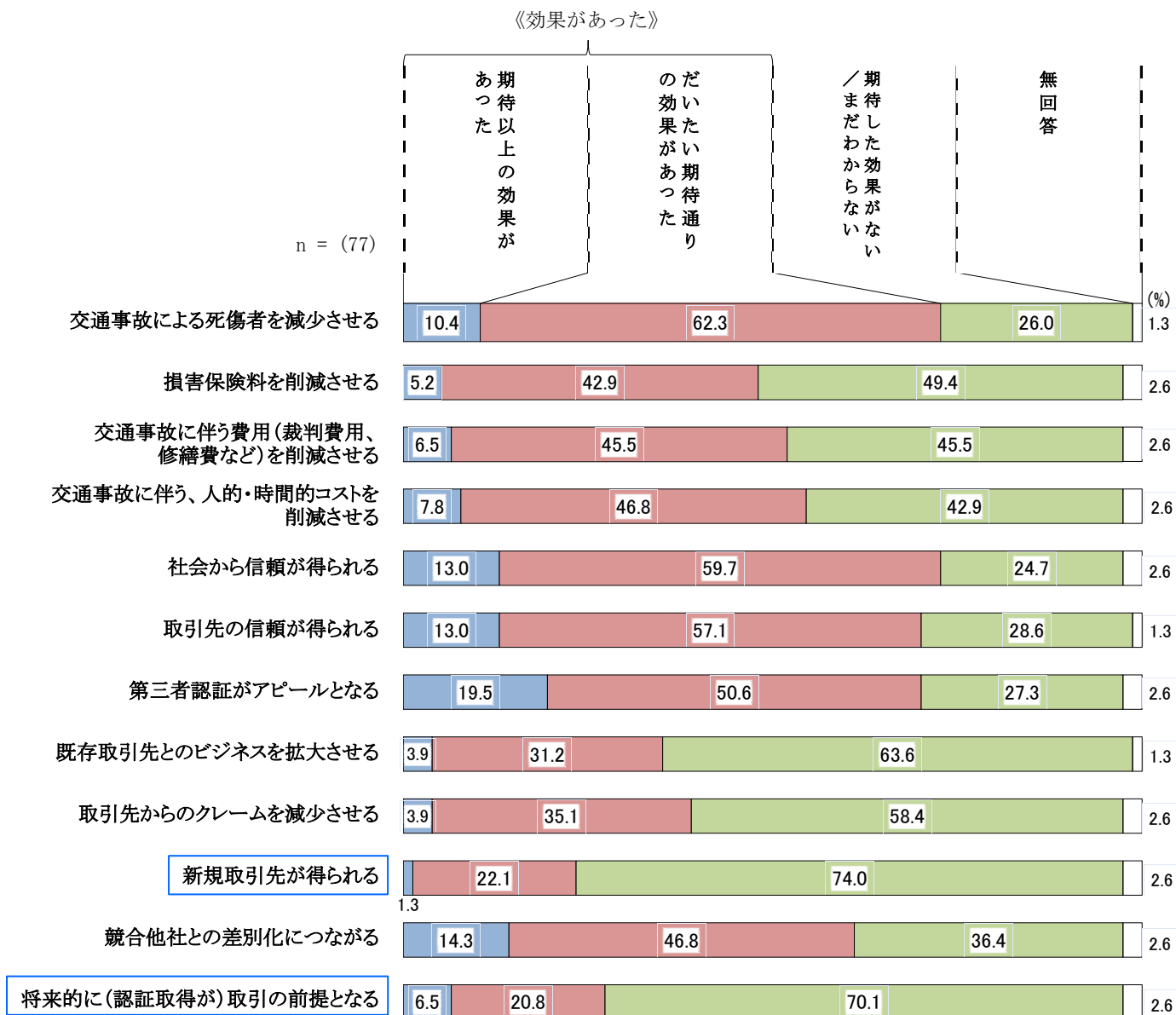
【RTS詳細目標活動の結果】（具体的記入あり＝128件）	
目標達成	61件
目標である評点90点以上を全月で達成した。	
200件／年報告で目標達成	
今年度5人添乗指導し目標達成	
実績、変動率の報告	15件
前年経費46%減	
1か月で310～433便をチェックしている。	
3か月に1回全乗務員が受けている。	
目標達成ならず	13件
実施率94.3%のため目標達成できず	
業務上災害1件発生目標未達	
人員不足により計画通りにいかなかった。	
運用継続中	13件
現在実施中	
今のところ約50%削減	
目標値以内で推移	
目標達成見込み・継続中	7件
継続目標達成中	
月割の目標値を継続達成中	
目標8件未達に対し4件発生。目標達成見込み	
その他	19件

RTS詳細目標活動の結果については、「目標達成」が61件と最も高く、次いで「実績、変動率の報告」（15件）、「目標達成ならず」（13件）の順となっている。認証を取得した多くの企業様が、RTS詳細目標を達成していることが分かった。

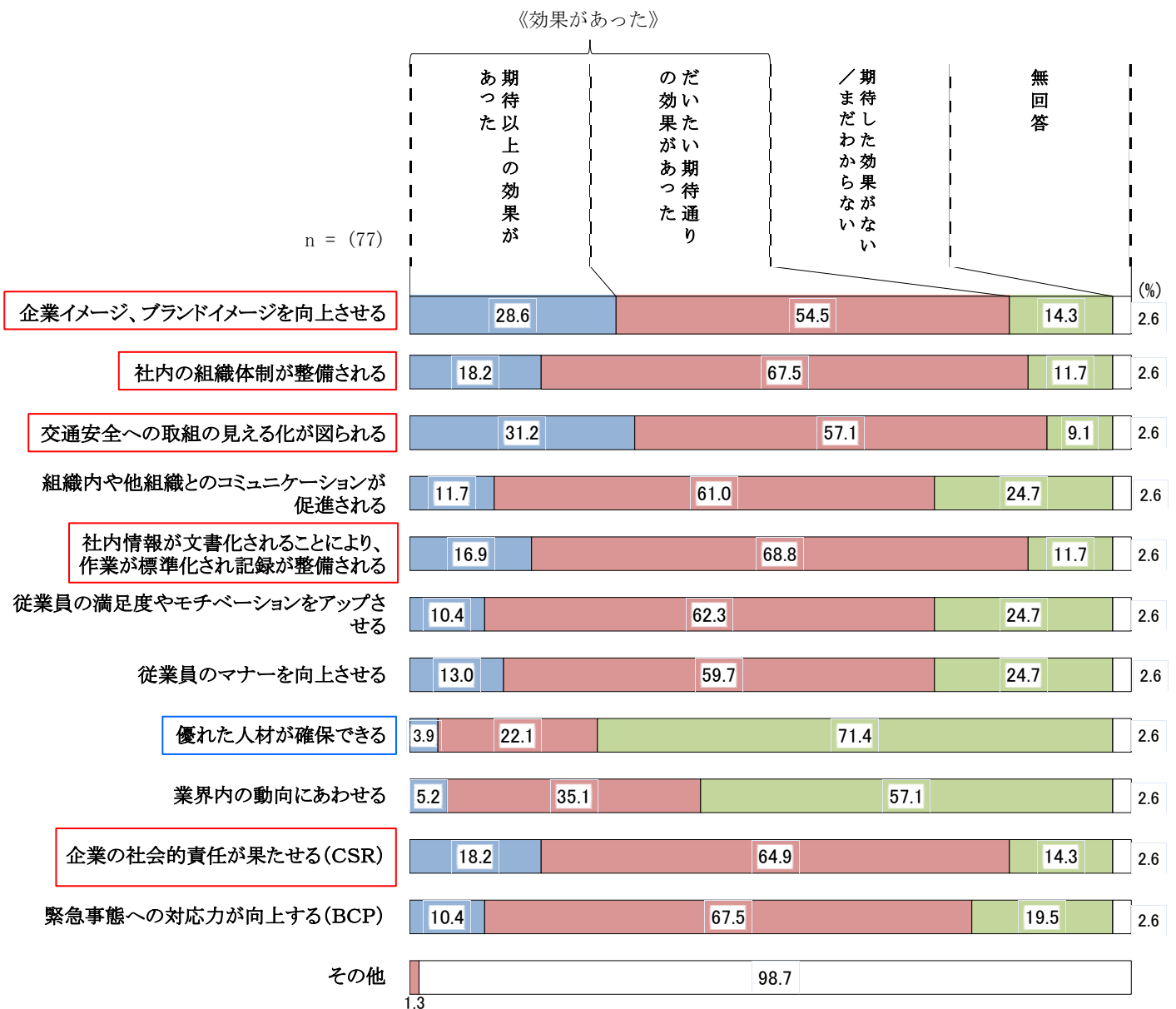
(10) ISO 39001 認証取得後の効果

問10 ISO 39001 認証取得後に、どのような効果がありましたか。それぞれの項目ごとに効果の度合いを認証取得前に期待していたことと比較してお答え下さい。
(それぞれ1つだけ○)

【図21 全体①】

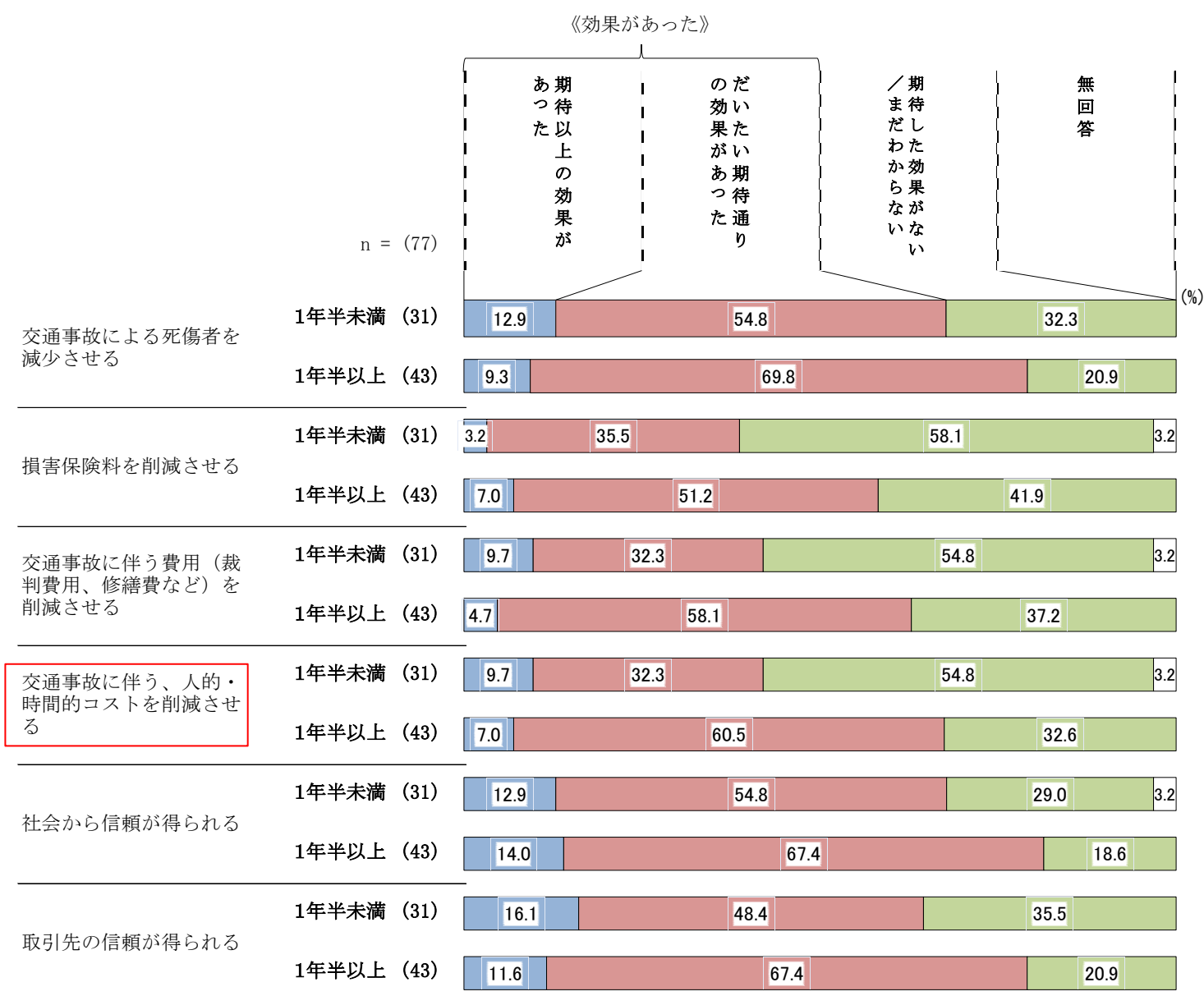


【図2-2 全体②】



I S O 3 9 0 0 1 認証取得後の効果についてみると、『期待以上の効果があった』と『だいたい期待通りの効果があった』を合わせた《効果があった》は、「交通安全への取組の見える化が図られる」68件 (88.3%)、「社内の組織体制が整備される」「社内情報が文書化されることにより、作業が標準化され記録が整備される」それぞれ66件 (85.7%)、「企業イメージ、ブランドイメージを向上させる」「企業の社会的責任が果たせる (CSR)」それぞれ64件 (83.1%) が8割を超えて高くなっている。『期待した効果がない／まだわからない』は、「新規取引先が得られる」57件 (74.0%)、「優れた人材が確保できる」55件 (71.4%)、「将来的に (認証取得が) 取引の前提となる」54件 (70.1%) が7割を超えて高くなっている。認証を取得した多くの企業様は、道路交通安全マネジメントシステムを運用することが、道路交通安全に向けた、環境整備・体制構築に有効であると認識していることが確認できた。

【図23 認証取得時期別①】

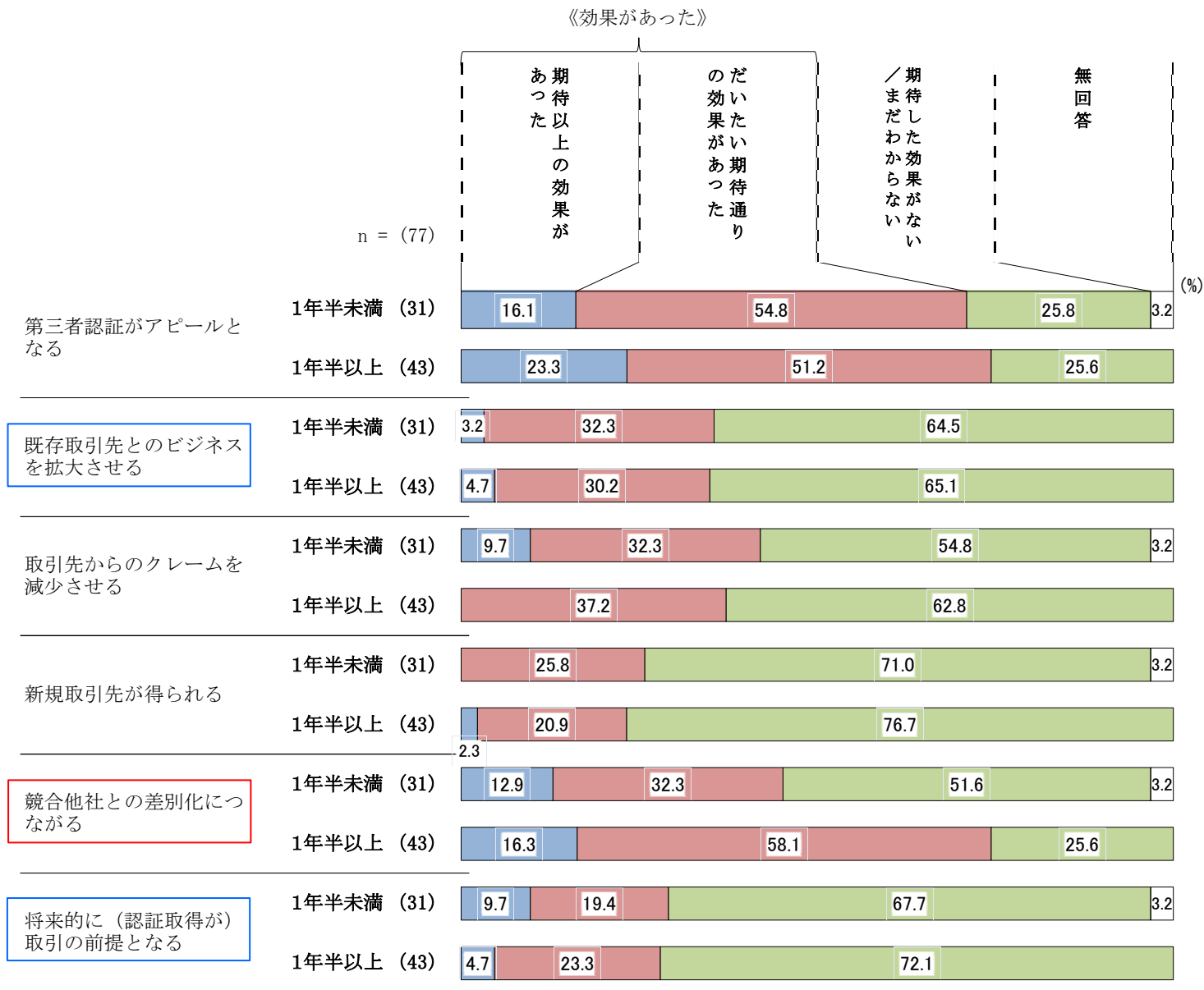


ISO 39001 認証取得後の効果について、企業様が認証を取得してから「1年半未満」と「1年半以上」の認証取得時期別でみると、《効果があった》は、「企業の社会的責任が果たせる（CSR）」が33.1ポイント、「競合他社との差別化につながる」が29.2ポイント、「交通事故に伴う、人的・時間的コストを削減させる」が25.5ポイント、「従業員の満足度やモチベーションをアップさせる」が22.4ポイントそれぞれ『取得してから1年半以上』の方が増加している。

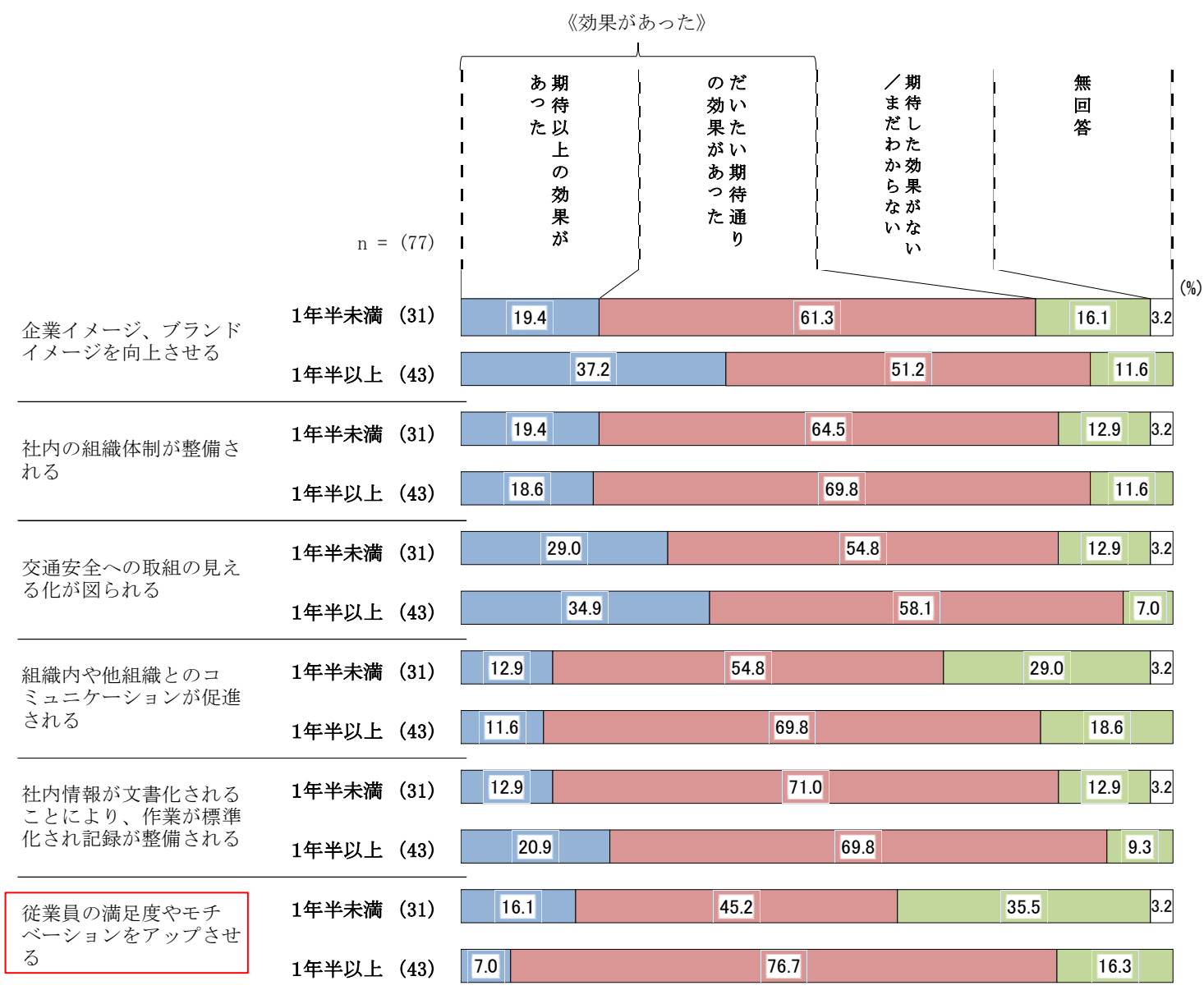
「既存取引先とのビジネスを拡大させる」（0.6ポイント）、「将来的に（認証取得が）取引の前提となる」（1.1ポイント）、「優れた人材が確保できる」（2.2ポイント）は認証取得時期でみるとあまり差はない。

認証を取得した多くの企業様は、道路交通安全マネジメントシステムを運用し続けることで継続的改善が図られ、様々な面で効果が得られていることが分かった。

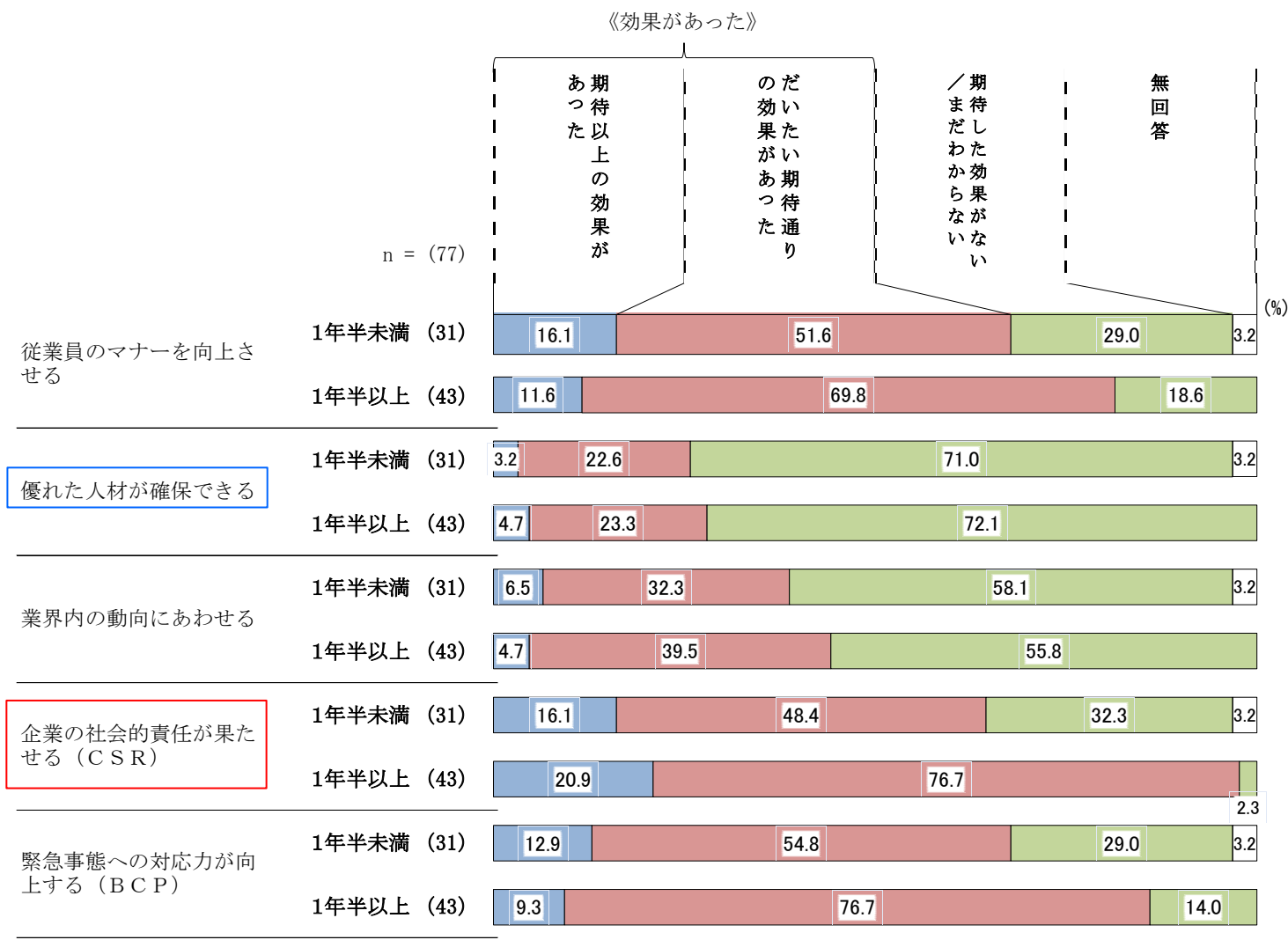
【図2-4 認証取得時期別②】



【図25 認証取得時期別③】



【図26 認証取得時期別④】



(11) ISO 39001 認証取得効果の具体例

問11 ISO 39001 認証取得後、具体的にどのような効果がありましたか。下記の項目毎に、具体的に効果があった事例をご記入下さい。効果がない／（まだ）わからない場合は、「なし」または「わからない」とご記入下さい。

【図27 交通事故（抜粋）】

【交通事故】（具体的記入あり＝63件）	
事故が減少した	32件
毎年20件以上の事故が取得後5件までに減った。	
事故発生件数が2割程度ずつ毎年減少している。	
重傷死亡事故は導入後0件。有責道路上事故も年間1件程度であり、非常に効果がある。	
事故0件を継続	7件
事故件数は0件を継続	
有責事故ゼロ件を継続できているので効果はある。	
重傷事故0件継続中	
減っていない、変わらない	4件
全社的には構内事故も含めたため件数は増えたが、対象事業所だけ見れば微増と言える。	
認証取得後軽微な事故を含め、一時的に激減したが、年間平均では大きな効果が見られない。	
重傷事故はゼロだが、物損が多い。（減らない）	
費用数字を示して、減少した	1件
売上高に占める損害金額比率は減少傾向で、事故の小規模化につながっています。	
その他	13件
わからない	6件

交通事故に対する効果については、「事故が減少した」が32件と最も高く、次いで「事故0件を継続」（7件）の順となっている。

認証を取得した多くの企業様は、道路交通安全マネジメントシステムを運用することで、交通事故を減少させたことが分かった。

【図28 損害保険料（抜粋）】

【損害保険料】（具体的記入あり＝47件）	
保険料が減少した	19件
75%の最高を継続中	
損害保険料が3割減	
保険料が過去最低となった。	
変わらない	7件
平年並みの数字で推移している。	
ほぼ変わらず(もともと安かった)	
保険料は大きな変動はない。	
保険料が増加した	3件
細かい事故が増え10割増加した。	
物損(自損)で修理代の高額なものがあり、結果的に保険料の増額になった。	
2015年は増加（とび石事故も含まれているため）	
その他	6件
わからない	12件

損害保険料に対する効果については、「保険料が減少した」が19件と最も高く、次いで「変わらない」（7件）、「保険料が増加した」（3件）の順となっている。

認証を取得した多くの企業様は、道路交通安全マネジメントシステムを運用することで、保険料を減少させたことが分かった。

【図29 既存取引先（抜粋）】

【既存取引先】（具体的記入あり＝45件）	
変わらない	14件
取引先がISO39001への認識が薄い。	
全くではないが効果はない。	
特別、認証取得している理由で増加は見られない。	
一定の評価、信頼、アピールとなっている	9件
取引先に取得をアピールし、信頼が得られた。	
取引先から一定の評価をいただいたものの、取得理由にした効果は見受けられない。	
取引先の信用は得ている。量の増加はない。	
取り引きや問い合わせが増えた	6件
メインのお客様の品質管理トップの方からプレゼンさせていただくお話がもらえ、より円滑な関係構築につながっている。	
取引先から39001について問い合わせが増加した。	
事故以外の取引は増加	
わからない	16件

既存取引先に対する効果については、「変わらない」が14件と最も高く、次いで「一定の評価、信頼、アピールとなっている」（9件）、「取り引きや問い合わせが増えた」（6件）の順となっている。

【図30 社内コミュニケーション（抜粋）】

【社内コミュニケーション】（具体的記入あり66件）	
社員の意識が変わった、高まった	13件
社員個々の安全意識の向上	
社員の交通事故への自覚がやや向上したように見える。	
目標に対する意識が高まった。	
自発的に安全管理をするようになった	11件
安全大会において交通安全講習に自主的に取り組む。	
アルコールチェッカーの確実な実施ができている。	
ドライブレコーダーデータの活用向上、ヒヤリ・ハット情報が多くなった。	
ドライバーの意識が変わった、高まった	8件
乗務員の事故に対する意識が変わった。	
ドライバーの意識は向上した。	
ヒヤリハットを通じてドライバーからの意見が多く出た。	
部署間のコミュニケーションが増加した	8件
部署間のつながりが増加した。	
社内ミーティングを行う機会が多くなり、意見が多く出るようになりました。	
本部関係部門間、本部、営業部店間のコミュニケーション円滑化	
事故に対する意識が変わった	5件
事故に対する意識は大幅に変わった。	
事故件数を毎月報告及び傾向報告することによって啓発活動が増えている。	
社員一人ひとりの事故に対する意識が向上した。	
安全対策以外への波及効果	1件
社内全体にコミュニケーション強化の機運が高まった。	
変わらない	3件
その他	11件
わからない	6件

社内コミュニケーションに対する効果については、「社内の意識が変わった、高まった」が13件と最も高く、次いで「自発的に安全管理をするようになった」（11件）、「ドライバーの意識が変わった、高まった」（8件）の順となっている。

認証を取得した多くの企業様は、社内コミュニケーションを深め、道路交通安全マネジメントシステムを運用していることが分かった。

【図3-1 社外コミュニケーション（抜粋）】

【社外コミュニケーション】（具体的記入あり＝45件）	
コミュニケーションが増えた	12件
駐車場改善などで管理会社との対話が増えた。	
お客様ヒアリングを行った結果、コミュニケーションが増加した。	
協力会社の評価を行うため、コミュニケーションは増えた。	
講演依頼等があった	5件
安全講習会の依頼があった。	
講演会のご依頼、経済産業省様、その他物流関連のメディアの皆様からの取材の依頼があった。	
協力会社からの問い合わせがあり、独自の説明会を開催したりした。	
その他	2件
変わらない	15件
わからない	11件

社外コミュニケーションに対する効果については、「コミュニケーションが増えた」が12件と最も高く、次いで「講演依頼等があった」（5件）の順となっている。

【図3-2 新規取引先（抜粋）】

【新規取引先】（具体的記入あり＝38件）	
変わらない	17件
現在のところ、特になしと言える。	
効果はなし。	
特にご意見はない	
取り引きや問い合わせが増えた	5件
新規事業が増えた。	
新規取引先から輸送依頼あり	
有効案件が1件発生し、着地した。	
ピーアールの材料になる	3件
新規開拓のツールとして役立っている。	
取引先から新しいISOの規格として注目はもらっている。	
新規事業につながる。	
その他	3件
わからない	10件

新規取引先に対する効果については、「変わらない」が17件と最も高く、次いで「取り引きや問い合わせが増えた」（5件）、「ピーアールの材料になる」（3件）の順となっている。

【図33 トップマネジメント（抜粋）】

【トップマネジメント】（具体的記入あり＝62件）	
安全に対する発言が増えた、意識に変化があった	22件
トップからのISOに係る安全対策に関する発言が増えた。	
トップが運行管理に興味を示した。	
社長から安全に対する意識付けとなる発言が増えた。	
具体的な投資があった	12件
安全に対する投資の増減（防犯カメラ、デジタコ等）	
安全に対する投資は2割増	
安全に対し投資で解決できるものは積極的に進めるよう指示があった。	
今までも熱心に取り組んでいた	9件
従来から意識が高く、積極的な発言をしている。	
常にトップは安全に対する姿勢を強く持っている。	
元からトップからの発言、挨拶は多く、現在も維持している。	
会議のテーマにあがる、情報の共有化	5件
新技術の機器に対して関心が増え、会議等で良く話題に出る。	
マネジメントレビュー等を通じた情報の共有化	
会社の安全に関する会議での議論が活発になった。	
その他	7件
わからない、まだわからない	7件

トップマネジメントに対する効果については、「安全に対する発言が増えた、意識に変化があった」が22件と最も高く、次いで「具体的な投資があった」（12件）、「今までも熱心に取り組んでいた」（9件）の順となっている。

認証を取得した多くの企業様では、経営トップがリーダーシップを発揮し、道路交通安全マネジメントシステムを運用していることが分かった。

(12) 自由意見

問12 ISO 39001について、ご意見やご要望を、ご自由にご記入下さい。

自由意見について、27件の回答があった。これらの中から、代表的なものを抽出し、原文のまま掲載した。

【図34 自由意見（抜粋）】

(具体的記入あり=27件)	
ISO39001と運輸安全マネジメントの一体化	5件
運輸安全マネジメントとの重複を整理して欲しい。	
ISO39001と輸送安全マネジメントの一体化を検討してほしい。	
ISO39001の周知	4件
ISO39001「RTS」を広報・アピールして業界のみでなく、一般の方も周知するようになれば価値観が上がるのでは。	
未だに「ISO39001」の規格が理解（周知）されていない。国際規格と国内意図がズレていると感じる。当社は必要と判断していますが、世間の評価は厳しい。	
プライベート認証ではなく、JAB公認のスキームを求める	3件
プライベート認証ではなく、JAB公認のスキームを求める（N-RTSではなくて）。	
まずはJABの認定を。	
費用対効果が少ない、保険料を割引してほしい	3件
記録の整備に時間と労力を要しており、費用対効果が大きく得られているか疑問。道路管理者として認証取得されている事例（海外含む）があれば参考とさせていただきたい。	
ISO39001の認証取得により損害保険会社の保険料率の低減を望む。	
ISO39001普及のため、政府機関との連携を希望	2件
ISO39001普及のため、政府機関との連携を希望する。取得費用の補助金を出すなど、取得・維持コストの低減を図り、取得企業増加を企図されたい。	
行政との関係にメリットが少ない。連携等の強化を望む。	
用語、様式をもっとわかりやすくしてほしい	2件
ISOに初めて取り組みました。とにかく用語が分かりにくく、分かりやすい用語にするだけで、展開における問題の半分は解決できると思います。	
社員の中にやらされ感がまだある。様式等に工夫をする必要がある。	
JIS規格化	1件
ISO 39001のJIS規格化を検討してほしい。	
その他	7件

第 3 章 調査票

「ISO 39001 取得企業様アンケート調査」

本調査は、ISO 39001の国内審議委員会事務局である独立行政法人 自動車事故対策機構が、認証を取得した企業様の業態、規模、導入した目的、取得の効果などを把握し、国内審議委員会に取組状況をフィードバックするとともに、国内への更なる普及・啓発活動を行う資料として取得を希望する企業様等に展開することを目的として継続して実施している調査です。

《ご記入にあたって》

1. 回答は、該当する番号を○で囲んでください。回答の数は質問によって異なりますので、ご注意ください。なお、選択肢の中から「その他」を選んだ場合は、() 内に内容を具体的に記入してください。
2. ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒（切手不要）にて、12月14日（月）までにご返送ください。
3. この調査についてご不明な点がありましたら、次の問い合わせ先へご連絡ください。

【調査に関するお問い合わせ】

・調査の主旨、目的に関すること

独立行政法人 自動車事故対策機構 安全調査室 高橋、太田

TEL：03-5608-7641 お問い合わせ受付時間：平日9:00～17:40

・調査票の内容、回答方法に関すること

株式会社 サーベイリサーチセンター 大木

TEL：03-3802-6724 お問い合わせ受付時間：平日10:00～18:00

貴社名、ご担当者、連絡先をご記入下さい。

※ご記入いただいた個人情報、ご回答いただいた内容の確認以外には使用いたしません。

貴社名	
部署	
ご担当	
お電話番号	

第3章 調査票

問1 ISO 39001を知った情報源は何ですか。(あてはまるものすべて○)

- | | |
|----------------------|------------|
| 1. 自動車事故対策機構 (NASVA) | 4. 取引先 |
| 2. ISO認証機関 | 5. 新聞・専門誌 |
| 3. ISOコンサルタント会社 | 6. その他 () |

問2 最初にISO 39001を知った時、認証取得に関してどのように判断されましたか。(1つだけ○)

- | |
|-----------------------------------|
| 1. 認証取得するための準備をすぐにはじめた |
| 2. 認証取得することは決めたが、準備をはじめるのに時間がかかった |
| 3. 認証取得することを悩んだ |

問2で「2. 準備時間がかかった または 3. 悩んだ」に○をつけた方にお伺いします

→ 問2-1 それはなぜですか。(あてはまるものすべて○)

- | | |
|------------------|---------------------|
| 1. 認証取得にお金がかかる | 6. 必要性を感じない |
| 2. 維持にお金がかかる | 7. 取引先から要望があるかわからない |
| 3. 人材が不足 | 8. 先に取り組む課題があった |
| 4. 効果が得られるかわからない | 9. その他 () |
| 5. 他の規格で間に合う | 10. 特に理由はない |

問3 ISO 39001の認証取得の準備をはじめた時期はいつですか。(西暦の年月でご記入ください)

				年			月
--	--	--	--	---	--	--	---

問4 ISO 39001の認証取得された時期はいつですか。(西暦の年月でご記入ください)

				年			月
--	--	--	--	---	--	--	---

問5 ISO 39001の取得に関して、コンサルタントの支援を受けましたか。(1つだけ○)

- | | |
|-------------------|----------------------|
| 1. コンサルタントの支援を受けた | 2. コンサルタントの支援を受けていない |
|-------------------|----------------------|

問5で「1. 支援を受けた」に○をつけた方にお伺いします

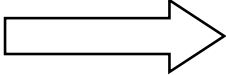
→ 問5-1 どちらのコンサルタントですか。ご記入ください。

--

問6 ISO 39001以外に、下記の認証をお持ちですか。(あてはまるものすべて○)

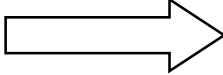
- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| 1. ISO 9001 (品質) | 4. OHSAS 18001 (労働安全衛生) |
| 2. ISO 14001 (環境) | 5. その他 () |
| 3. ISO 27001 (情報セキュリティ) | |

問7 ISO 39001の認証取得する前は、取得するメリットとしてどのようなことを期待されて
いましたか。それぞれの項目ごとに期待していた度合いをお答え下さい。(それぞれ1つだけ○)

項目ごとに、横向きそれぞれ1つだけ○ 	1 は っ き り と 期 待 し て い た	2 何 と な く 期 待 し て い た	3 期 待 し て い な か っ た
1. 交通事故による死傷者を減少させる	1	2	3
2. 損害保険料を削減させる	1	2	3
3. 交通事故に伴う費用（裁判費用、修繕費など）を削減させる	1	2	3
4. 交通事故に伴う、人的・時間的コストを削減させる	1	2	3
5. 社会から信頼が得られる	1	2	3
6. 取引先の信頼が得られる	1	2	3
7. 第三者認証がアピールとなる	1	2	3
8. 既存取引先とのビジネスを拡大させる	1	2	3
9. 取引先からのクレームを減少させる	1	2	3
10. 新規取引先が得られる	1	2	3
11. 競合他社との差別化につながる	1	2	3
12. 将来的に（認証取得が）取引の前提となる	1	2	3
13. 企業イメージ、ブランドイメージを向上させる	1	2	3
14. 社内の組織体制が整備される	1	2	3
15. 交通安全への取組の見える化が図られる	1	2	3
16. 組織内や他組織とのコミュニケーションが促進される	1	2	3
17. 社内情報が文書化されることにより、作業が標準化され記録が整備される	1	2	3
18. 従業員の満足度やモチベーションをアップさせる	1	2	3
19. 従業員のマナーを向上させる	1	2	3
20. 優れた人材が確保できる	1	2	3
21. 業界内の動向にあわせる	1	2	3
22. 企業の社会的責任が果たせる（CSR）	1	2	3
23. 緊急事態への対応力が向上する（BCP）	1	2	3
上記以外に、ISO 39001の認証取得する前に、取得するメリットとして期待していたことあればご記入下さい。 			

問8 R T Sマネジメントシステムを構築する上での取組み難易度はいかがでしたか。

それぞれの項目ごとに1番近い取組み度合いをお答え下さい。(それぞれ1つだけ○)

項目ごとに、横向きそれぞれ1つだけ○ 	1 困 難 な 取 組	2 普 通 の 取 組	3 容 易 な 取 組
※【 】はISO 39001の章を示す。			
1. 組織及びその状況の理解【4】	1	2	3
2. 利害関係者の特定とそのニーズ及び期待の理解【4】	1	2	3
3. 安全方針の策定【5】	1	2	3
4. 組織の役割、責任及び権限の設定【5】	1	2	3
5. リスク及び機会の検討（リスク評価）【6】	1	2	3
6. R T Sパフォーマンスファクターの特定【6】	1	2	3
7. R T S目標及びR T S詳細目標の策定【6】	1	2	3
8. 行動計画の策定【6】	1	2	3
9. 組織の内部及び外部との協議及び連携【7】	1	2	3
10. 資源の検討及び提供【7】	1	2	3
11. 力量の設定【7】	1	2	3
12. 道路交通安全に対する認識【7】	1	2	3
13. コミュニケーション体制の構築【7】	1	2	3
14. 文書類の整備【7】	1	2	3
15. 運用管理の方法【8】	1	2	3
16. 外部委託プロセスの管理【8】	1	2	3
17. 緊急事態対応の手順の作成【8】	1	2	3
18. 緊急事態対応のテストの実施【8】	1	2	3
19. 取組に対する、監視、測定、分析及び評価【9】	1	2	3
20. 関係法令等の順守状況の評価【9】	1	2	3
21. 発生した交通事故に対する原因分析、対策の実施及び有効性の評価【9】	1	2	3
22. ヒヤリハットの収集及び分析【9】	1	2	3
23. 内部監査の実施【9】	1	2	3
24. マネジメントレビューの実施【9】	1	2	3
25. 是正処置の実施及び有効性の確認【10】	1	2	3
26. その他（ ）	1	2	3

【御社のRTS目標及びRTS詳細目標についてお伺いします】

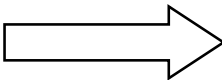
問9-1 代表的な「RTS目標」について以下の表にお答えください。(複数回答可)

番号	RTS目標の内容	RTS目標の指標と把握の方法	RTS目標活動の結果
例	車両事故件数を前年比 2割削減	事故報告書による件数を 月毎に集計し、把握	車両事故件数を前年比で 2割削減のため目標達成
1			
2			
3			

問9-2 代表的な「RTS詳細目標」について以下の表にお答えください。(複数回答可)

番号	RTS詳細目標の内容	RTS詳細目標の指標と把握の方法	RTS詳細目標活動の結果
例1	アルコールチェックの徹底 実施率100%	アルコールチェック実施率を 毎月集計し、把握	実施率100%で目標達成
例2	社速厳守の徹底 違反者数前年比50%減	毎運行後にデジタルタコグラフにより社速違反件数を把握	違反者数半減で目標達成
1			
2			
3			

問10 ISO 39001 認証取得後に、どのような効果がありましたか。それぞれの項目ごとに効果の度合いを認証取得前に期待していたことと比較してお答え下さい。(それぞれ1つだけ○)

項目ごとに、横向きそれぞれ1つだけ○ 	1 期待以上の 効果があった	2 だいたい期待通りの 効果があった	3 期待した効果がない ／まだわからない
1. 交通事故による死傷者を減少させる	1	2	3
2. 損害保険料を削減させる	1	2	3
3. 交通事故に伴う費用（裁判費用、修繕費など）を削減させる	1	2	3
4. 交通事故に伴う、人的・時間的コストを削減させる	1	2	3
5. 社会から信頼が得られる	1	2	3
6. 取引先の信頼が得られる	1	2	3
7. 第三者認証がアピールとなる	1	2	3
8. 既存取引先とのビジネスを拡大させる	1	2	3
9. 取引先からのクレームを減少させる	1	2	3
10. 新規取引先が得られる	1	2	3
11. 競合他社との差別化につながる	1	2	3
12. 将来的に（認証取得が）取引の前提となる	1	2	3
13. 企業イメージ、ブランドイメージを向上させる	1	2	3
14. 社内の組織体制が整備される	1	2	3
15. 交通安全への取組の見える化が図られる	1	2	3
16. 組織内や他組織とのコミュニケーションが促進される	1	2	3
17. 社内情報が文書化されることにより、作業が標準化され記録が整備される	1	2	3
18. 従業員の満足度やモチベーションをアップさせる	1	2	3
19. 従業員のマナーを向上させる	1	2	3
20. 優れた人材が確保できる	1	2	3
21. 業界内の動向にあわせる	1	2	3
22. 企業の社会的責任が果たせる（CSR）	1	2	3
23. 緊急事態への対応力が向上する（BCP）	1	2	3
24. その他（ ）	1	2	3

問11 ISO 39001 認証取得後、具体的にどのような効果がありましたか。下記の項目毎に、具体的に効果があった事例をご記入下さい。効果がない／（まだ）わからない場合は、「なし」または「わからない」とご記入下さい。

交通事故について	(例：重傷事故または有責事故が○件（または○割）減少した 等)
損害保険料について	(例：損害保険料が○割減少した 等)
既存取引先について	(例：取引先から信用をいただき、取引量が増加傾向となった 等)
新規取引先について	(例：取引先から個別相談業務や認証取得支援の依頼があり新規事業に繋がった 等)
社内コミュニケーションについて	(例：社員から安全に対する取り組みについて意見が多く出るようになった 等)
社外コミュニケーションについて	(例：協力会社とのコミュニケーションが増えた 等)
トップマネジメントについて	(例：安全に対する投資が○割増えた。トップから安全に対する発言が増えた 等)
その他	

問12 ISO 39001 について、ご意見やご要望を、ご自由にご記入下さい。

(例：仕組みがない会社にとっては、仕組みを構築できるいい機会となりうる。 ISO 9001 等のように入札条件にするなど、政府機関との連携が必要。 ISO 39001 の JIS 規格化を検討してほしい。 等)
--

【貴社についてお伺いします】

F 1 貴社の業種は何ですか。（1つだけ○）

- | |
|--|
| 1. 旅客や貨物を運送する自動車運送事業者
(例：いわゆる緑ナンバーのバス、ハイヤー・タクシー、トラック 等) |
| 2. 上記以外
(業種：) |

F 2 貴社の全従業員数は何人ですか。（1つだけ○）

- | | | |
|-----------|----------------|-----------------|
| 1. 5人以下 | 6. 51～100人 | 11. 3001～5000人 |
| 2. 6～10人 | 7. 101～200人 | 12. 5001～10000人 |
| 3. 11～20人 | 8. 201～500人 | 13. 10001人以上 |
| 4. 21～30人 | 9. 501～1000人 | |
| 5. 31～50人 | 10. 1001～3000人 | |

F 2-1 そのうち、ISO 39001の適用範囲に含まれる従業員数は何人ですか。（1つだけ○）

- | | | |
|-----------|----------------|-----------------|
| 1. 5人以下 | 6. 51～100人 | 11. 3001～5000人 |
| 2. 6～10人 | 7. 101～200人 | 12. 5001～10000人 |
| 3. 11～20人 | 8. 201～500人 | 13. 10001人以上 |
| 4. 21～30人 | 9. 501～1000人 | |
| 5. 31～50人 | 10. 1001～3000人 | |

F 3 貴社でご使用されている車両数は何台ですか。（1つだけ○）

- | | | |
|---------------|--------------|---------------|
| 1. 0台（使用車両無し） | 6. 21～30台 | 11. 301～500台 |
| 2. 1～2台 | 7. 31～50台 | 12. 501～1000台 |
| 3. 3～5台 | 8. 51～100台 | 13. 1001台以上 |
| 4. 6～10台 | 9. 101～200台 | |
| 5. 11～20台 | 10. 201～300台 | |

F 3-1 そのうち、ISO 39001の適用範囲に含まれる車両数は何台ですか。（1つだけ○）

- | | | |
|---------------|--------------|---------------|
| 1. 0台（使用車両無し） | 6. 21～30台 | 11. 301～500台 |
| 2. 1～2台 | 7. 31～50台 | 12. 501～1000台 |
| 3. 3～5台 | 8. 51～100台 | 13. 1001台以上 |
| 4. 6～10台 | 9. 101～200台 | |
| 5. 11～20台 | 10. 201～300台 | |

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

ISO 39001取得企業様アンケート調査
報告書

発行日／平成28年3月

発行／独立行政法人 自動車事故対策機構

〒130-0013

東京都墨田区錦糸3-2-1 アルカイースト19階

TEL 03-5608-7641